になるのだから他人の定めた時間割でも之を守らうと思へば十分に守れることは論を待たない。大合科學習は決して規律節制を無視するもので無い。只漸次に自律的に發展することを主とするから始めは無理に煩鎖な法則に依つて規律を維持せうと思はぬだけである。これが眞に道德を愛し結局に於て高度の道德が出來る樣になるのである。規律尊重は宜しい規現律尊重の爲めに道德修養の出發點を誤るのは痛歎すべきことである。

三、生活內容の定め方　學習者は何れも教科書を持つて居る。指導者は當該學年內少くとも在學中には規定の課程を履修させることは勿論考へて居る。然れども學習事項の排列順序は教科書とは一致しない。又學習する事項は學年相應のことには限らない。教師はこれだけの制限を以て學習者に大合科學習を爲させる。なるべく教科書に拘泥しないで學習を進め教科書などは其の順序を追うて教授せずとも學習者は能く其の內容に通じ讀みこなすことも出來る樣にすることを努める。

教科課程と雖も學習者の本質と其の環境とを考へて定めたものである。從つて或る整理された環境裡に學習者が生活すれば教師の方から生活內容を規定せずとも學習者は自ら教科課程で要求して居る活動を爲すのである。斯くて學習者は讀み、書き、描き、計算し、製作する。生活は道德と離れるものでも無く體育と離れるものでも無い。只從來の教育法は課程に系統を重んじ分科主義を取り何事も分類して事物を處理することを重視し最初から教師の力によつて此の如き處理を爲し之を兒童に授與した。大合科學習法に於ては此等の處理を重視せぬのでは無いが最初から之を教師の手によつて爲すことを好まず反つて學習者が學習の結果漸次に此の處理能力を具備すべきものと考へて居るのである。斯くすれば學習者の生活が無系統になり混雜亂雜に陷り人格の發展に大なる障害を來たすとは從來の教育者の主張する所であるが大合科學習法を主張するものは之と全く見解を異にして居る。從來の如き教育法は餘りに人爲的に過ぎ學習者の生活が餘りに特殊的になつて人格の發展に大なる障害がある。大合科學習の生活が多少無系統であつても生活は極めて自然で學習動機も旺盛で興味を以て生活するから能く自己を發展させることが出來る。其の內に漸次系統も

立ち規律も立つて來る。且つ大合科學習の生活には大人の考ふる如き系統は無くとも學習者は漸次自己の經驗改造を爲すのであるから自ら其の内に一種の系統は立つて來る。又個性を發揮し各自は各自の生活徑路を定め特殊能力を發展せしめ創造生活を爲すことが出來る。更に具體的に云ふと學習者は廣く各自の環境である實事實物に就いて經驗し其の上文字、繪畫、計算、製作等の諸能力を具備したならば教科課程にある位のことは容易に處理出來ると主張するのである。之は理論の上ばかりでなく經驗に徴して明かなことである。此の種の經驗の無いものは其の効果を危ぶむのは無理は無い。私も最初は之を危ぶんだものである。

能く人生の各方面に就いて生活し教科課程の履修にも差支ないことは實際に經驗したものは怪しまないけれども尚中には若し教科課程中の事柄で學習者の生活に入らぬものがあつたとしたら如何にするかと云ふものがある。之に答ふることは極めて簡單である。曰く教師から教へてやるがよい。其の實能く環境を整理し指導を十分に爲して置けば此の様な必要は無いのである。

大合科學習は學習者自ら自己の環境に交渉して人生の各方面に觸れて行くものであるから初學年から隨分廣く各種の生活を爲て行くことが出來る。世人往往理科を初學年から課せなど云ふが大合科學習の際は理科生活の如きは自ら其の中に這入つて來る。大合科學習に於ては理科生活が頗る著るしい發展をするのである。それは最初から實事實物に觸れることが多いからである。其の他小學校の課程に含まない様なことも澤山學習生活の中に這入つて來る。併し其の各種の生活は決して無駄でも無く又その爲めに人格發展を害するものでも無い反つて相依り相輔けて教科課程の履修を輔けて行くことは頗る面白い。從來の様に狹く教科課程だけを考へて教育しては廣く人生の發展に害あるばかりで無く教科課程の履修にも不十分である。又當該學年の學習事項のみに沒頭しては下學年で上學年の基礎を築くことも出來ない。下學年に於て分數の崩芽を培ふて置けば相當學年に於て能く分數の計算に徹底出來る。廣く人生の全體に着眼して學習の基礎を大きく固く築くことは必要である。達觀達識の士のみ能く人の子を指導することが出來る。

大合科學習に於て最初は指導者の方では計畫的具案的であつても學習者の方では偶然學習を爲すことが多い。從つて獨自學習が多く顯はれる。然れども遊戲だの製作だの相互學習に屬するものも澤山ある。各學習者が各自に異なつた生活內容を持つた後でもそれぞれ相互學習を行ふことも出來る。然るに學習者は環境に支配され易いものであるから共通の題目を取つて學習することも決して尠くはない。其の題目には大小種々ある。春の野山・僕等の學校・星など云へば各で一學期間も學習出來る。七夕祭・春日祭・蓄音機・運動會の如き小さき題目も出て來る。共通題目は相談して定めることも多いが場所の上から自然に定まることもある。例へば動物園に行けば自ら動物について學習する樣なものである。指導者は各學習題目の內容と教科書とを引合せて置くことが必要である。

各教科の內容は容易に大合科學習中に這入つて來るが體操は注意しないと往往缺けることがある。之も校外學習を多くし又體操的環境中に導けば學習者は自ら體操的生活を爲すから特に心配するほどの事は無い。

四、獨自學習と相互學習　大合科學習の初步に於て教師は決して或る知識技能を學習者に修得させることを强く考へてはならぬ。寧ろ廣く學習生活の基礎を築くことを主とせねばならぬ。其の方法は時と場所と人とによつて一樣では無いが最初二三週間は學校を離れて公園や海濱や野山で學習者と教師とが樂しく遊ぶ位が宜しい。併しこれは教師に取つては頗る苦心のある時で決して氣樂なもので無い。此の間に於て學習者が家庭殊に親しい母親を思ふ情を和げて安んじて學校で學習する樣にせねばならぬ。師弟の間は十分に愛を以て結合し以心傳心無言の感化の及ぶ根底を作らねばならぬ。生活創造の萠芽も自律的活動の萠芽も漸次に伸びなくてはならぬ。學習者は遊ぶと思うて居ても其の內に非常に澤山の事を學び直觀、想像、推理等の心作用から其の他各種の心身の作用の發展を圖つて居るのである。斯く學習者は校外學習を爲すと共に適宜に心を校內學習に向けるものである。校內學習に於ても實事實物によつて生活することの多いのは勿論だが彼等は決して之に止まらず能く文字言語の形式的方面にも學習心を傾けるものである。此の時から形式的學習と實學的學習とは能く統合させて置かねばならぬ。

學級に於ける獨自學習と分團相互學習とは能く混合して現はれる。獨自學習は學習者の生活可能の所から始める。學習者は各發展力を有し環境にはぐくまれて伸びて行く。初めから教師が教へない所から生活創造が行はれる。其の生活の結果は面白くなくとも各自の環境に依つて生活改造の途を開拓する。獨自學習の際に教師は勿論指導をするがされば一々指導し盡さねばならぬことは無い。教師は環境の組織には極力努力するが獨自學習の指導が不十分だとて必ずしも悲觀しない。それは環境の力により又相互學習の方法によつて能く補ふことが出來るからである。此の際誤つた學習を爲して指導不十分であれば先入爲主の理に從ひ將來に惡影響のあることを考へられないことも無いが、學習態度を樹立することに平素努力する學習者は何事も自分で判斷し創造し改造を心掛けて居るからさほど此の缺陷は心配は要らぬ。實地經驗上多く害を見なくて大合科學習の利益は多く擧つて來る。又大合科學習に依ると知識技能の要點に徹底することが出來ないと心配する人があるが、それも指導宜しきを得れば決して心配は要らぬ。寧ろ教師が教授したよりもより能く徹底すると考へられる。

從來の教授觀から推しては不安心であらうが實地に就いて觀察を遂げたならば心配が要らぬことがわかる。

學習者は生活の必要上種々の事を痛切に求める。大合科學習はその需める所から常に出發する。學習者が熱心になるのは何も不思議は無い。これが所謂劣等兒を救濟する所以である。彼等は痛切に求めるから直觀も比較も能く出來る。比較が進めば諸法則は類似の發見から生み出され、差異の發見から物の區別が明になり、思想は明瞭となり判然となる。情意の方面に於ても自ら研究も動作も爲して行くのだから自ら發展するのである。獨自學習の際も能く心身を活動させ相互學習の際は他人から益を受けることが多い。

大合科學習を行ふ間は教師は毎日學習者のノートを見ることが必要である。上級では困難だが低學年は書くことも尠いからノートを全體見ることはさほど困難ではない。學習事項には人の約束に關することも多いから大合科學習の際他から教示を受けることが勿論澤山あるが此等は學習者の自主的活動の內容となるものである。大合科學習は決して他から教へて貰ふことを否定するもので

無いが從來の様な學級教授法を取らぬものである。若し學級教授を爲すことありとせばそは極めて變則の場合である。

五、中小の合科學習と各科の學習　大合科學習は學年の進むに從ひ漸次に中小の合科學習に轉移する。此の中小の合科學習は即ち各科の學習である。大合科學習法は一般の學習法によることは勿論だが其の各部の取扱は以下各科の學習法を參照すれば能く理解することが出來る。實に大合科學習法は各科學習法の序論である。各科の學習法は大合科學習の具體的方法を提供する。

第一一章　體操的精神の發揮

第一節　序說

一、體操教授と養護　教育方法多元論によれば教授の外に養護がある。教授は知育であり養護は體育だと云うても大體に於て差支は無からうが其の教授の一分科に體操がある。體操（Gymnastics）は身體の操練の義であつて精神の操練とは相即不離の關係を有つて居る。Gymnastic なる形容詞は心身何れの操練にも用ゐられ（ギムナスチック）Gymnasium（ギムナジウム）は體操所であるが Gymnasium は文學科學を修める高等學校の義に使はれて居る。此の體操と養護又は體育とは如何なる關係があるのであらうか。體操を知育である所の教授に從屬させるのも變なことだが、我が國の實際に於ては體操教授は教則に規定せられた内容と要旨とによつて漸次に技術教授化せられ、身體養護の方面は可なり閑却された。體操教授の段階は早くも一般教授段階から離れて準備運動・主運動・整理運動の順序で定だめられ身體そのものの

發展を圖ることを主としたのは如何にも卓見であつて今後も此の順序は採用せられるであらうが、其の教授の實際に於ては知育の本性を現はして說明主義に陷り先づ說明を與へて體操的技術の發達を圖らうとしたのは遺憾である。體操教授が心身の兩方面に關係して居ることは敎則の規定でもわかるが其の體操が技術化して技術の發展を圖ることに偏して廣く養護方面を閑却しては恐くは敎則の要旨を徹底させる譯には行くまい。而して學校では體操敎授時間は定立されて居るが養護時間は定立されて居ない。敎授と養護とを對立させる敎育方法多元論の害毒は茲にも及んで居る。

學習方法一元論に依れば敎授と養護とは對立させない。從つて養護に關することは勿論體操科に入れて置く。此の體操科では身體的活動の側面から這入つて心身の操練も身體そのものの發展も圖る。此の如く爲て行かうと事ふ精神が體操的精神である。斯くすることに依つて眞に敎則の精神に合致して其の精神に徹底することも出來る。心身一如と觀じて學習するにも非常に便宜であり有效である。

二、身體輕視と精神重視

希臘の昔に於ては心身に就いて偏輕偏重は無かつた樣である。中世以降漸次身體は輕視せられた。身體を輕視する時には身體を敵視する思想すらあつた。それは東西一徹である。又ヘルバルトの如きは養護に關する事は醫者の領分で敎育學者の研究すべきもので無いとして體育を敎育學から除外した。極端な心身二元の考へ方である。現時の我が國に於ては體操科は學校の正課であり體育にも努めて居るが兒童生徒も父兄も因襲的思想に因はれて今尙精神偏重の思想を有つて居る。彼等は學問が出來ないと恥辱に思ふが身體の發展の不十分はさほど恥辱とは思うて居ない。學問をせうと思うて學校に入學するものはあるが身體を十分に發展させうと思うて入學するものは殆んど無い。學校の敎師も身體偏輕の思想に因はれて居るものが非常に多い。其の爲めに精神を偏重して居ながら反つて精神の發展を妨げて居る。誠に氣の毒なことである。今後更に體操科——內容を改善して——の發展を圖るので無いと恐くは學習者の全人格を十分に發展させることは困難であらう。昔は文武兩道を重んじ眞の武士は文の心得の無いことを愧ぢ文を學ばずば眞の武士で無い

と考へて居た。今人之を思うて果して如何なる感を抱くであらうか。學問が出來ても體操的精神が向上して居なくては駄目ではあるまいか。

近來は非常に運動競技を重んずる樣になつた。殊に學校よりも社會に此の傾向が强くて學校は社會に引きずられて行く氣味がある。何れにしても競技や運動の盛大になるのは結構なことである。國家社會の政策上から人類平和の上から各個人發展の上から見て非常に悦ばしいことである。只技術に墮ちて精神に破れる樣なことの無い樣にせねばならぬことは勿論である。今日の學校には學校長から生徒に至るまで眞に競技や運動を理解しないものが可なり澤山ある。中には此等を理解した樣な顏をしてその實ひそかに其の發展に反對して居るものもある。自ら體育を實行せず自ら體育の指導も出來なくて之を不都合とも恥辱とも思うて居ない教育者の多い間は眞の教育も學習も效果を擧げられるもので無い。然らば如何にして體操的精神を發揮すべきか。十分に研究を爲て見なくてはならぬ。

第二節　體操學習の要旨

一、體操の要旨　體操は學習者自ら體操的生活を爲して體操的精神を發揮することに依つて不斷に自己の發展を圖ることを以て要旨とする。此の如く考察することに依つて現時の體操科に或る轉回期を劃したいと思ふ。

教則には體操の要旨を次の如く規定して居る。

體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ、四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ、以テ全身ノ健康ヲ保護增進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ、兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙ブノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

之は立派な規定であるが此の要旨に徹底させ更に一段の效果を收めるのには學習の立場から體操の要旨を考へることが必要であらう。

此の規定から見ると體操科は決して身體の發展をのみ目的とするもので無くて精神的にも道德的にも其の發展を圖るものであることは明瞭である。して見ると體操と云ふ名稱は穩當でない樣にも考へられる。之を體育と云へば聊か範

圍は廣汎になるが面白くない。之を體育運動と云はうが同樣に面白くない。既に體操とか體育とか云へば餘りに身體をのみ强く考へさせる。そもそも之が體操科の效果の擧らぬ原因ではあるまいか。此の如き考察は心身對立に墮ちて精神的方面に缺陷を生ずるばかりで無く身體的方面も十分の發展を阻害される。端的に云へば精神が身體を作るのである。精神作用が不十分であつて如何にして身體の成長發展を圖ることが出來ようか。世には優秀なる精神を持ちながら身體の病弱な人はあるけれどもそれは體質の虛弱な爲めもあらうが多くて體育的精神の徹底せぬが爲めであらう。心身を對立させて考へるのは一寸便利もあるが寧ろ心身一如と觀じ如何なる有目的作業を爲すにしても常に心身全體を考へて學習を進めることが得策である。又實際は其の樣になつて居るのである。然らば如何なる熟語を以て體操なる語に代用せうか。今は適當な詞が無いから暫く體操の語を其の儘として其の內包と外延とを定めたいと思ふ。

二、體操に於ける形式陶冶　敎則に於ける體操の要旨は體操に於て之を濃厚に發現することは事實であるけれども、何も體操に限つたものでなくて、他の學科にも之を發現することが多い。能力心理學は既に其の勢力を失ふこと久しである。又精神の形式的陶冶の效果も非常に其の範圍を限定して考へる今日に於て此の事は怪しむに足らない。從つて體操科だけで如何に剛毅や規律や協同に注意しても其の效果はさほど思はしくない。如何にしても學習全體の場合に之を心掛けねばならぬ　身體に關する規定事項も之と同樣である。各學科の學習要旨を定めるのに其の主要なる特質のみを高調するのは初學者を誤る恐れがある。而して之は必ずしも初學者ばかりで無く一般の敎育者を誤らせた形跡がある。

　各學科の要旨は自ら生活することに依つて生活の發展を圖ると云ふ一般學習目的に於て一致する。此の點から云ふと各學科に於て各別の學習目的を立てぬが宜しい。各學科の區別は學科に於ける生活內容の相違に依れば宜しい。既に生活內容が相違すれば各科に於ける生活狀態は總體的に見て異なつて來る。高調せられる心身の作用も異なつて來る。此の高調せられる心身の作用を各科の特質とか要旨とか考へて差支は無からうが、之と共に必ず各科は一般學習目的に直接して居らねばならぬ。一般學習目的から見て各科の生活內容を取扱ふ所に

眞に渾一的人生の發展を見ることが出來る。斯くすることが各科の特質を發揮することにもなる。之は分を以て全に參する方法であると共に全を以て分に寓する方法である。學習方法一元論の妙味も此處にある。

三、體操科の特質　法令では體操生活の內容を體操・教練・遊戲・武道に分けて居るが之を體操と運動とに分けて凡百のものを之に包含させても差支ないと思はれる。尤も運動と云ふ文字は妥當なもので無い。此の體操と運動とを如何に廣義に解しても所謂衞生とか體育に關する全體を含めて之を體操と總稱するのは聊か困難な樣でもあるが、さればとて從來の教育學の如く體操の外に體育又は養護と云うて實際に統一して居るものを強いて分けて研究するばかりでなく實際に之を實施せうとするのは有害であるから、少し無理ではあるが衞生體育に關することも成るべく之を體操科に攝取するのが宜しいと思ふよ。勿論體育衞生のことは修身にも理科にも家事などにも含まれて居る。斯く考へて體操生活の內容を列擧してみよ。勿論此等の內容は互に密接不離の關係を有する。

1、全身の健康を保護增進するには必要なる智識を修得すること。

2、作業・娛樂・睡眠・休息・食事等の日常生活に於て身體の成長發展を圖る習慣を樹立すること。

3、體操・教練・遊戲及び武道を實行することと興味と實行とを不斷に發展させることが右の如き體操的生活についての智識と興味と實行とを不斷に發展させることが體操科に於て努力する所である。云はゞ體操的生活は生理の大原則である身體の新陳代謝の法則の行はるゝことを中心として全人格の發展に寄與する所の生活である。此等の體操的生活は學校及び家庭等に互つて實現せられ體操外の諸學科中にも實現せらるゝことは勿論だが體操學習時間中の學習は其の中心となるものである。學校に於ける體操學習は其の以外の體操的生活と聯關して行はれ更に他の體操的生活に影響する。

四、體操的生活の效果　有目的活動である體操的生活は心身作用の全體に關係し生活の方法が適當であればそれから種々の效果を擧げることが出來る。

1、身體に於ける骨格・筋肉・皮膚・神經・脈管・呼吸・營養及び生殖の八系統を均齊に發展させ調和的に活動させる。

2、姿勢端麗、體格偉大、體力增大、生命永續の好結果を得られる。
3、心身の活動が機敏精巧・確實・强壯・耐久・優美になる。又外來の衝害に抵抗する力を增大する。
4、精神的には思慮・反省・決定・忍耐・自信・剛毅・快活等の諸作用を發展させる。
5、道德的には誠實・自律・協同・親切・謙遜・服從・自己統御等幾多の道德を發展させる。
6、社會的には愛を以て能く協同し社會奉仕の精神を發揮する。

此の外に體操的生活が科學的經濟的の生活となることは勿論遂には宗教的生活にまで影響所から自ら科學的、經濟的の法則と合致せねば優秀な効果が得られぬする。彼の宗教的行者が如何にもして身體的束縛を去り解脫的生活に入らんが爲めに難行苦行するかを見てもわかる。身體を苦しめることが必ずしも解脫的生活に進む路ではないが之によつて精神に或る修養を積むことの出來ることは明瞭である。

婦女子が體操的生活を爲すことによつて女子らしい擧動と精神とを失ふであらうと心配したのは東西同一轍であるが之は杞憂に過ぎない。既に述べた體操生活の効果を見ても何等心配の無いものであることは明かである。併しながら何れの生活でも一種の厭ふべき風習の伴ひ易いことは有りがちのことであるから體育家や競技者や之に漏れず厭ふべき風習を有することが多い。女子は體操的生活を爲すことに於て特に此の點に留意し體操的生活によつて女子の貞淑を害せぬばかりで無く反つて之を高めることが無くてはならぬ。

五、體操的生活と學業成績　體操的生活は廣く人生の各方面に關係して居て此の生活に依つて全心身の作用を喚起し之を活潑にすることが出來る筈であるが、實際に於ては往々體操的生活に優秀だと認められて居るものが必ずしも他學科の學業成績に於て優秀で無いことが多い。之は何故であらう。思ふにそれは次の理由によることであらう。

1、所謂體操的生活なるものが狹義の體操や競技の一方面に限られて體操的生活の全部に亙らない。
2、體操的生活に於ける身心作用の發展が他の生活に利用せられない。

3、體操が教師に依つて敎授せられ學習者自ら工夫して學習するのでないから何れの學科の學習も各自の自己發展の一點に朝宗しない。

4、過度に體操的生活に時間を消費し他の學習に歡喜的努力をしない。此等の關係から體操的生活と他の生活とが能く連絡せぬことのあるのは事實だが、體操的生活の發展に伴ひ他の生活に於ても漸次に快活になり活潑になり活動向上する樣になり相互に相助けて各種の生活が發達することも決して尠なくない。現に優秀な競技者は多くは學業成績の優秀なものであると云うても大抵差支は無い。體操的生活が深く精神的生活に關係して居る上に體操的生活の向上によつて身體が健全となり優秀なる姿勢が保たれて血液循環が非常に良好となつたならばそれて全精神作用の進歩せぬ理由は無からう。體操的生活の發展と學業成績の優秀とが併行しない傾向のあるのは要するに學習方法の實現が不十分であると云ふことが主要なる原因であらう。

六、體操學習動機が微弱で且つ永續せぬ理由　體操的生活に限らず如何なる生活でも一つの生活から他の生活に影響させることは困難な場合が多い。之は各學科の學習に於て旺盛なる學習動機を以て創作的に自分の力を以て學習しないことが最大の原因であらう。體操的生活に於ても旺盛なる學習動機換言すれば强い興味を以て自ら進んで學習することは非常に必要であるが實際に於ては其の樣に參らぬことが多い。殊に女子は體操的生活に興味の薄いものが多い。幾年も體操的生活を重ねて其の間に快感を起すことが無くて只義務的に之を遂行すると云ふのでは誠に慘めなものである。そればかりで無く學校を卒業して後も生涯を通じて體操的生活に興味を持ちて其の生活を實現することは何人にも必要であるが、之は決して容易なものでない。之には男子と雖も困難する。そもそも其の原因は何處にあるだらう。

1、所謂體操的生活の內容が餘りに單調であつて同一種類の體操遊戲を平等に各學習者に學習させるのは宜しくない。如何なる體操遊戲でも全體の學習者に興味を持つて學習させることは殆んど不可能である。步行練習でも興味を以て實行するものは約七割である。從來は多く此の點に留意せず何でも劃一に實行させた。

2、體操的生活が形式的受動的であつて創作的自律的に學習が出來ない。
3、姿勢や技術が要領を失うて居て眞に生理的法則に從ふことが不十分であつて快感が伴はない。
4、體操的生活の環境組織が不完全である。
5、運動遊戲の種類が學校時代にのみ適するものが多くて社會家庭などに於て多忙に暮らすものに適切なものが甚だ尠い。步行練習や冷水摩擦の如き誰でも生涯を通じて行へることを思ふたならば解決の端緒は得られるであらう。

七、體操的生活と團體の發展　各學習者の體操的生活の發展は學校及び學級の發展に影響することが多い。體操的生活が身體的に精神的にまた道德的に進步するに從ひ師弟の間は親密になり敬愛を增し學校全體に協同の精神が溢れ學習者の修養が非常に容易になる。殊に團體的競技を爲して方法當を得て居れば其の間には他の學習生活には見ることの出來ない程の種々の德性が養はれ立派な學校精神が發揚せられる、之が爲めに學校精神の進步誠に著るしいものがある。學校の成員全體の健康が增進することは勿論である。學級の仕事に於ても能く協同して事に當り面白く社會的發展を遂げる。競技の際の統率者は其の他の時に於ても學級學校の統率者となることが多い。然れども體操的生活の方向を誤り徒らに勝負を主として道德的方面を遠かりて誤つた競技者氣分を發揮すると反つて學校の社會的發展を妨害することも此の難關に遭遇するから學校當事者は往々競技などを厄介視するのである。學習生活中體操的精神の發展を圖ることは非常に必要で之を輕視しては學習生活の發展に大なる弊害が伴ふことを覺悟せねばならぬ。何れにしても學校の指導者全體に體操的生活上の深い經驗と理解とのあることを必要とする。

八、體操生活に於ける心身合致の妙境　體操的生活は身體的に精神的に又道德的に發展せねばならぬことは屢之を說いたが全自己の發展から體操的生活を眺めると更に窮極する所がなくてはならぬ。心身一如とは云へ身體は容易に精神の命令に忠實を現はさない。反つて身體の方から精神を制肘することが多い。又實際に於ては心身の一方面が特に高調せられることも多い。心身の二つが眞

に能く圓融相即して心は體を忘れ體は心の儘となり心にあらず體にあらず心身合致の妙境に住して全自己の發展始めて大なりと云はれる。大抵の人は時々ならば此の妙境に住することは至難である。此の妙境に入るには主として心の方面から進む場合と體の方向から進む場合とある。體操的生活は心身全體の活動であるが體操的活動から此の妙境に入ることを努めるものである。彼の武道に於ても入神の技は敢て之を賞賛せぬのではないが之は武道の終局でない。武道に於ては心身合致の妙境に入ることを終局とする。此の妙境に入つて始めて入神の技を體得することが出來たのであらう。心身合致の妙境と云うても其の質と時とに於て種々の發達段階があつて決して一樣で無い。從つて妙境など云うても學習者が決して少しも觸れることの出來ないもので無い。體操的生活としては必ず此の心身合致の妙境をねらはねばならぬ。併しながら體操的生活だけで此の妙境に常任する樣にすることは不可能であつて必ずや他の學習生活の發動を待たねばならぬ。玆に至つては人生の六實相の融合を考へ何れの生活でも此の種の努力を爲すことを必要とするが特に心的活動を主とする方面と體的活動を主とする方面との兩方から作りあげて其の契合を需めねばならぬ。

九、體操的精神と創作的學習　體操的生活に於ては生活の處理法を言語や思慮で解決して滿足すべきでない。必ず體操的動作を以て解決することを本體とする。指導敎師が學習者に向つて體操的生活に於て斯の如き場合は如何に處理するかと問ふたならば學習者は必ず言葉を以て答へるであらうがそれが宜しくない。出來るならば直ちに思想を動作に實現してそれこの通りと云はぬばかりにせねばならぬ。斯くして心身合致の妙境を步々に實現する。此の如き體操的生活を重ねると心身合致の妙境に住まんとする精神即ち體操的精神が發揚する。換言すれば此の體操的精神が時間的に永續し空間的に擴張し本質的に深くなる。此の體操的精神が發展して體操的生活は步々に發展する。體操の學習に於て體操的活動の末技に馳せてはならぬことは吳吳も注意せねばならぬ。此の體操的精神は勿論精神作用全體を含み身體を基礎とする。體操科は此の精神を發展させることが其のまゝで全人格

の發展となり其の環境の發展となる様に努力することを要旨とする。此の要旨を實現するには矢張創作的學習を必要とする。併し之は困難に考へられ易い。一體に初學者に技術の創作的學習を要求するのは不可能底のことを强要するものだと考へる人が多いが旣に圖畫、手工、裁縫などでは此の困難を突破して相當に好成績を擧げることが出來たのである。體操ばかり創作的學習の出來ないことは斷じてあり得ないと信ずる。

第三節　體操科と訓練、養護及び他學科との關係

一、體操的生活と他學科との關係　教育方法多元論を排し學習方法一元論を取るものとすれば訓練を修身科に含め養護を體操科に含める　從つて玆には體操科と他學科との關係を論究すれば事足ることである。

前節に述べた様に體操の學習要旨を定めるならば體操的生活の發展は他學科の學習を助けること夥しい。元來心身合致の妙境を修得することは直接と間接との別はあるにしてもひとり體操科だけで出來ることでは無くて何學科の學習に於ても之を努めねばならぬことである。從つて體操的生活の發展は他學科の學習生活の發展と相待つて此の妙境に達する譯である。從來の教育方法は精神偏重であり心身對立であるから體操的生活を顧慮することが甚だ乏しい。各學科の學習生活を發展させる時に體操的生活の方面から考へて處理を爲すことが尠い。多くの教育者は全人格の教育者でなくて恰も精神方面だけの教育者の如き觀がある。教師が心理學を始め幾多の精神科學を必要とするならばそれと同

樣に生理學や醫學をも修めねばならぬ譯である。教師に醫者の資格を要求するのは過ぎて居るけれども教師は醫者と協同する外に自身も大に體操的生活方面から考慮を拂はねばならぬ。學科の成績が擧らぬ爲めにひたすら之を精神的に救濟せうとするとそれは眼病に氣付かない爲めであつたり內臟機關の不十分の爲めであつたりすることが多い。更に滯積なのは睡眠不足の爲めに成績が不良になつて居るものに徒らに精神方面から救濟することに努めて居る樣なことが澤山あることである。教師ばかりでなく多くの父兄も同樣なことを爲て居る。今後は師弟共に更に體操的生活方面に留意して學科の學習生活の向上を圖ることに配慮せねばならぬ。小學校令第一條にも兒童身體の發達に留意して教育せよと規定してある。從前の教育者は此の身體的條件を輕視して教育したと云ふ非難を免れることは出來ぬと思ふ。

二、各學科と姿勢の練成　體操科にて學習した姿勢は他の學習の際にも之を保持せよとは法令の求める所であるが實は他學科の學習に於て姿勢そのものを重要視して之を鍛成することに努力せねば各般の勞作に於て種々の姿勢を十分に保持することは困難である。此の際體操科で作つた姿勢を他學科の時にも保持して居るのだと考へなくて他學科と體操科と協同して各般の健全なる姿勢を練成するのだと考へた方が遙かに得策である。體操的生活は單に所謂體操教授時間にのみあるものと考へてはならぬ。分の生活に全の生活を寓する生活者は恐くは此の如き考へ方をせぬであらう。姿勢の練成は其の方針を誤ると反つて各般の學習生活を妨害する。姿勢は精神的に云へば精神の統一であつて心理的に云へば注意の集注と同時に放散である。生理的に云へば血液循環の暢達である。優秀な姿勢は永續の出來る愉快なもので窮屈な一時的のものであつてはならぬ。姿勢の作成は丹田の養成である。身體を伸ばすが如きは第二義的のものである。姿勢の練成は體操的生活の基礎であるばかりでなく凡百の學習生活の基礎である。丹田の養成には實に種々の方法があるが最も簡單で比較的效果の多いのは恐くは步行とランニングであらう。

三、體操的生活と修身理科及び藝術　體操的生活は同時に修身的生活であり

理科的生活である。從つて此等の學習生活から體操的生活の發展を助けられる。他學科の學習が身體的活動を要せぬものは無い譯であるから體操的生活と他生活とは互に助け助けられるものであることは明瞭である。修身と云ひ修體と云へば文字上では殆んど區別が出來ないが、修身は道德的生活で修體は體操的生活であると云へば又一見頗る異なつた生活である。併し修體が其の儘で道德的生活であり修身の實行が其の儘修體となるのであるから其の關係は頗る微妙で生活は一つで性質は二つの觀があつて面白い。又體操的生活は創作性を創作的に活動させる所から其の儘で藝術的生活であるが其の藝術的生活が體操的生活の性質を帶びて其の發展が遂げられる。體操的生活に依つて心身合致の妙境に進むことが眞に藝術の堂奥に入る道であることを思ふたならば兩者の關係が密接であり微妙であることが思はれる。

第四節　體操的生活の內容

一、體操的生活の具體的效果　體操的生活と自己發展との關係は旣に說いたが更に體操的生活の具體的效果を擧げてそれから體操的生活の內容に及ばう。

1、職業的效果　職業には農業・工業・軍職・船乘・教師等種々あるが其の職業の準備としても其の職業を助けるとしても體操的生活の發展は必要である。

2、衞生的效果　衣食住個人及び公衆の衞生・作業・娛樂性の衞生・睡眠・休息・病氣等に關する衞生的生活であつて齒を磨き爪を淸潔にする些事まで之に屬する。

3、學習的效果　各科の學習に於て體操的生活に助けられることの多いのは勿論だが又その學習生活伸展の準備としても體操的生活の發展は效果がある。

4、國防的效果　人には爭鬪本能があるから之を充足せねばなるまいが競技は其の本能を美化し醇化する。從つて體操的生活を發展させることは世界

の平和を招來することになる。併し如何なる手段によるも永久平和を招來し得るとは誰が保證出來るであらうか。恐くは將來に於ても戰爭の慘禍を絶對に免れることは困難であらう。之が爲めに體操的生活の發展を圖ることとは特に必要である。又體操の內に軍事教練を加へる必要があることも十分に首肯出來ることである。所謂武裝的平和も之から得られる。併し軍事教練など稱へなくとも普通の體操運動の內に十分に軍事教練を包合することが出來る。現役軍人が體操の指導を爲すにしても軍事など稱へないことが望ましい。

5、思想的效果　身體が虛弱であれば學業に努めることも出來ず、經濟的能力を得ることも出來ない。之が根原となつて思想の惡化を來すことが多い。沈滯惰弱の氣分を排斥し剛健の精神を養ひ以て精神作興の實を擧げるのには體操的生活の發展に待つ所が甚だ多い。

如上の效果を擧げる樣にするには如何樣に體操的生活の內容を定めて宜しからうか。尙此の內容にしても比較的多數の人に適する運動と適しない運動とがある。又終生行へる運動もあれば或る時期に限つて行ひ得る運動もある。又單獨で行へる運動もあれば二人以上でなくては行ひ得ない運動もあるから各種の方面から考へて體操生活の內容を定めなくてはならぬ。

二、衞生、體操及び運動　體操的生活の內容を分ちて衞生、體操及び運動の三種とする。三者密接不離の關係を有つて居る。

體操科に於て衞生に關しては其の智識の修得を大抵は體操と運動とに結合させて其の實行を圖ることとである。又其の衞生は四六時中何時でも行はねばならぬことであるから學校以外でも行はれるがそれは學校では關係事項として之を取扱ふ。此の衞生の實行が大に學校の體操や運動の發展に關係する。體操運動の際は極めて周到に嚴重に衞生事項に注意せねばならぬ。

體操は合理的且つ敎育的である瑞典式體操を取つて基礎とするのが宜しい。敎練も體操の一部として採用すれば宜しい。體操を爲す主なる目的は身體を均齊調和的に發展させ如何なる活動にも端麗なる姿勢を持ち內臟諸器官を發展させ且つ身體に柔軟性を賦與するにある。且つ有意的注意を發展させて動作を機

敏活潑にし命令に服從せしめ精神を剛毅ならしめる。體操を爲すことの必要もその効果も之を認めぬものは恐くはあるまいが何故か學習者が大抵之を好まない。人によつては體操を苦痛とするものが甚だ多い。體操が如何に合理的教育的でも又國防に必要でも之を好まないとすると此の體操に依つて體操的生活の發展を圖ることは頗る困難である。假令之を好まぬとしても之を强迫して義務心服從心規律心を養へと云ふ人があるが、それは大抵は成功せず反つて惡結果を來すことが多い。然らば學校に於て此の體操(狹義の)を省くべきか。否。體操も其の學習方法如何によつては必ずしも興味の無いものでも無い。併し學習者全體が興味を有つことは思ふに困難であらう。尙此の體操と運動との關係を研究することによつて多く此の難關を突破することが出來る。之を要するに此の體操を輕視するのは宜しくない。

運動は其の種類が甚だ多いが之を爲す目的は體操科一般の目的を遂げることにあることは勿論である。只學習者は運動によつて特に社會的道德的の効果を

擧げることが出來る。即ち勇氣決斷注意の周到不屈不撓工夫創作服從自制協同犧牲敢爲統率大膽宏量權利義務等について立派な習慣を養成することが出來る。實に熱誠をこめて運動を行ふことによつて心身の發展を助けることは頗る大なるものがある。彼の步行演習の如きでも熱誠を以て之を行へば一冊の修身教科書全體を實演する樣な觀がある。

運動を細別すると遊戲競技舞蹈武道水泳氷滑乘馬漕舟狩獵步行水浴等頗る澤山ある。武道を運動中に屬せしむることは往々武道家の忌む所であるが、之は運動は精神的のもので無いと考へるからだ。然るに體操運動は決して單に身體的だの娛樂的だのと云ふものではなくて大に精神的のものである。又之を精神的のものに爲なくてはならぬことは體操的精神の所で述べた如くである。

初步に於ける體操的生活としては劇的遊戲となつて發現する。店遊び狩遊び動物遊び學校遊び消防夫遊び等の如き人生を劇化した遊戲は澤山ある。學習者自身が劇的遊戲を創造することも勿論出來る。否寧ろ此等の人生劇は學習者の創作に基き教師の指導に依つて發展したものでなくてはならぬ。汽車遊び電車

遊びの如き家庭に於ける幼兒の頗る好んで實演する所であるが其の工夫、創作、想像、思考、實行等には甚だ面白いものがある　此等は遊戲であるが幼兒の生活全體であるから其の遊戲中には早くも人生の六相の萌芽が見えることは快心の至りである。若し此處に賢明なしかも學習指導を心得て居る父母兄弟があつたならば彼等幼兒は頗る面白い發展を爲すであらう。此の如き劇的遊戲は決して初步の體操生活に限つたものでなくて大人は大人だけに發展させて實行することが出來る。高尙な學習劇も舞踏も其の他藝術なども漸次に之から發展して行くであらう。

劇的遊戲であるから身體的動作の外に勿論音樂もあれば言語もある。此の音樂言語などと伴うて學習者は動作する。指導教師又は學習者が樂器を奏すれば他の學習者は之に合せて動作で曲想を表現するが如きは面白くて有益である。下學年の兒童からでも器樂の出來るものを出すことは敢て困難でない　之と共に學習者が作歌作曲が出來ると頗る面白い　家庭の幼兒でも歌らしいものを謠うて曲節を附ける。決して之を愚弄してはならぬ　之から劇的遊戲は漸次立派に發展する。吳々も學習者の生活を分科的思想に依つて體操の一面に局限してはならぬ。學習者が猫や鷲鳥や飛行機などの活動狀態を眞似て各種の活動狀態を實現することは面白くて優良な運動であるが之を出發點として漸次に他の運動を附加へて行く時は能く兒童の成長發達に一致することが出來る。蹴る・匍匐する・攀る・步む・走る・飛ぶ・跳ねる等の運動は或は單獨に或は他と結合して實現される。運動中最も基礎的のものは恐くは短距離のランニングであらう。次は步行である。步行すると云へば何でも無い樣に思ふが步行には澤山の種類もあり條件もある。其の效果も世人が想像する樣な微弱なものでは無い。從來は體操科に於て步調取れの行進の如きものが重視されたが吾々に取つて最も必要なのは普通の步き方である。又一生涯通じて行ふ運動としては恐くは此の步行に越すものはあるまい。而して步行練習は其の實精神統一の運動であるから步行は修養上から見ても實に缺くことの出來ないものである。競走とか步行とかは運動ばかりでなく狹義の體操、衞生にまで效果を及ぼすものである。運動によつて此の體操の發展を助け又は體操の代用を爲すことが出來るが、眞に運動競技の發展を

圖るためには此の體操によつて大に身體の健康增進·均齊發達及び內臟の健全を圖る所がなくてはならぬ。世人往々體操は矯正術だけに使用して宜しい。須らく大に運動競技を課すべしと云ふが一應は聞えて居るけれども二者は偏廢すべきもので無い。相互に大に協同すべきものである。只何れを主とするかと云へばそれは勿論運動競技である。運動競技でなくては全人格の發露としての體操的生活の發展を十分にすることは困難である。體操及び衞生は運動競技を助けて役立つものである

女子が體操や運動競技を行ふと女らしさが無くなる樣に云ふ人があると前にも云ふたが眞に女らしい特質は體操的生活の發展した人にのみ現はれると思はれる。然らば女子に最も適當な體操運動は何であらうか。思ふに女子と男子とは根本的に區別することは出來ないであらう。男女によつて區別するよりは更に男女の心身の狀況によつて運動體操の種類程度を定めねばならぬ。男子でも性質、體質、疾病等によつて爲す所の運動體操に考慮を加へねばならぬことは當然のことである。男女の行ふ運動の區別が漸次に無くなつて男女共に同種の運動を爲す樣に傾くことは各國共通の事實である。女子でも體力の增進と技術の進歩と精神の發達とによつて從來は女子には過激だから不適當とされた運動も容易に之を行ふことが出來て學習的効果を擧げられることが多い。バスケットボールは女子に過激だ、長距離のランニングは女子の行ふべきもので無いと形式的に定めて置く必要は無い　之と共に女子は男子と同一の運動を行うて宜しいなどと確定して置いてはならぬ　此の如きことは今日の人類の經驗では確定出來ぬことだと信ずる。時代の進歩と世人の思想の變化と女子の體操的生活の發展とは今現に年々女子の運動の種類と程度とを變化させて新レコードを作りつゝある。何れにしても運動選擇の條件を確守することと運動實演後の結果を考査することは決して之を忽にしてはならぬ。此の如く女子の體操的生活は男子のよりも今急に發展しつつあるのだから概念的に女子の體操的生活を取扱ふのは頗る危險が多い。具體的に十分考慮すべきであると思ふ。

第五節　體操的生活に於ける環境整理

一、人的環境　如何なる學習にも體操的生活の實相を具備して居ないものは無いから體操的生活の環境は實に千種萬樣と云はねばならぬ。實に其の內には人あり物あり自然あり社會ありだ。此の環境を整理組織することに依つて各學習者は體操的生活欲を刺戟せられ體操的生活を實現し體操的生活の具體的効果を收めることが出來るのである。

環境中頗る重要なものの一つは指導教師である。何れの學校でも全體の教師が體操的生活を熱愛し教師として學習者の體操的生活を指導することの出來ないのは道德的生活を指導することの出來ないのと同樣に恥辱であると考へ、其の上何か一つづつ特殊の體操的技倆を有し全校の學習者がそれぞれ各教師の長所について學習する樣にしたならば眞に活きた有効なる環境となることが出來る。眞に體操的生活を理解し自分は體操的生活の權化となるべく努力し且つ體操的生活の學習者を熱愛し彼等の體操的生活を發展させるのでなくては我が國家我が人類の前途を如何せんと考へる樣な指導教師が今の我が國に於ては特に必要である。

教師と共に必要なる環境は學友である。各種の個性を具備し各方面に秀でたる體操的生活が出來て學友相互に體操的生活に伸びて行かうとする學友は教師に劣らぬ大切な環境である。此の如き學友が無くては體操的生活の伸展することは困難である。從つて全校又は全學級に於て此の如き學習者が體操的生活尊重熱愛の空氣を作つて居れば各學習者は自ら自分の體操的生活を發展させることが出來る。此の校風此の級風を顧慮しなくては體操的生活の發展は危い。

體操的生活に興味と熱心とを有する父兄があつて家庭環境が體操的生活に有利であることは頗る望ましいことである。現今此の如きことを家庭に望むのは無理ではあるが學校からは是非共父兄に說いて此の方向に伸展させねばならぬ。相當に學識のある父兄でも身體よりも學問を重視するものが多い。彼等若し心身一如の理を觀じ體操的生活の眞義を理解し更にそれを體得して吳れたならば學習者に取つては非常な幸福である。父兄の精神次第で家庭も體操生活化し學

校も大に援助を受けることが出來るであらう。

現時社會に於ける人々が稍體操的生活を理解し其の發展を圖る樣になつたことは喜ばしいことである。殊に多くの新聞社が運動の發展に努力して吳れることとは有りがたい。各學習者も此の社會的空氣に觸れ進歩した體操的生活を見聞し自己の發展に資することは頗る多からうと思ふ。此の社會的傾向が一層社會各般の人々の精神に透徹して來ると國家人類の爲めに眞に慶すべきことで兒童生徒及び敎師は一層の便宜を得られることであらう。只世間の人が體操的生活と云へば餘りに狹義に解し其の意味を餘りに淺薄なものに爲て居るのは甚だ殘念なことである。

二、體操的生活の設備　學校の設備としては體操室・醫療室・武道場・更衣室・體操圖書室・浴室・灌水浴場（シャワーバース）・水泳プール・器具室等があれば宜しい。更に校庭の運動場・附近の丘陵・砂多き海岸・學校に近くて相應に高い山岳の如きものがあれば尙更に結構である。運動場には百メートルの直線コース・テニスコート・バスケット及びヴァレーボールのコート・角力場・其の他各種の器具器械等の具備すべきことは勿論で

ある。由來學校は精神的生活から見ての設備に富み體操的生活から見ての設備には頗る貧弱なことが多い。體操的生活の進歩が今後特に必要であることと體操的生活が心身兩方面に深い關係のあることを考へると以上の體操的設備に對して十分の經費を投ずる必要のあることは明瞭である。假令此等の設備が一度に出來ないにしても十分の根氣と工夫とを以て經費を作り漸次に之を完成することに努力せねばならぬ。又師弟相互の努力によつて僅少の經費で代用的設備を施すことも出來る。之と共に體操的生活の環境を學校內にのみ完備を求めるのは宜しくないことを悟らねばならぬ。學校以外の自然界又は社會に於ける運動的施設等に着眼して其の利用を忘つてはならぬ。敎師は此等の各方面に留意して其れ等の設備が十分ならずとも種々に工夫して幾分なりとも其の要求を充たすことに鋭意努力せねばならぬ。體操圖書室の如き特に一室を求めたならば今日多くの學校では困難であらうが學習室の一隅にても利用して體操的生活に關する各種の參考書・雜誌・運動年鑑・寫眞・圖譜等を備へることにしたならば早くも希望の一部を實現することが出來るであらう。

總じて學習者も指導者も共に廣く深く體操的生活の環境を考へて置いて其の一部分づゝを實現し常に環境の進歩を圖つて行くことを忘れてはならぬ。一度に其の完備を求めたならば多くは失望せねばならぬ。假令經費を十分に投じたにしても不斷に環境の發展の無い所には體操的生活の發展も乏しいことを深く思はねばならぬ。

三、環境利用の時間　體操科の環境利用の時間は一日中であり一年中であると考へねばならぬ。然れども學校を體操的生活の爲めに一日中一年中解放することには相當の施設經營を要する。之が爲めに設備について考へるのも必要だが第一に考ふべきは指導敎師である。學校の體操敎師の定員を相當に增加せねば此の環境解放は永續せぬ。相當の施設をすれば學校の兒童生徒に限らず一般の人々にも或る程度までは學校運動場の解放が出來る。體操運動の設備にしても同一市邑內の各學校が皆均一に十分の設備をすることが困難であつたならば互に補充的に設備して互に融通して使用することに爲ても宜しい。現時の如き國民の體操的生活の伸展を圖らねばならぬ時に學校に於ける體操的環境の解放

を十分に行ふことの出來ないのは眞に遺憾である。宜しく勞力と經費とを吝むことなく十分に國民の體操的生活を發展させることを努め、眞の人物養成は我が國各學校の運動場で出來ると云ふ位に致したいものである。學校は單に兒童生徒の學習場でなく學校卒業者が終生學習の出來る所にする必要がある。從來の樣に學校は國民が社會に出る準備所であると考へるのは宜しくない。彼等が社會に出てからも彼等の學習する所に致したいものである。試に學校內に夜間運動の出來る設備を爲し之に十分に心身の全活動の指導の出來る體操敎師を附して學校下の一般人に解放してみよ、國民の體操的生活の向上に大なる貢獻を爲すべきは誰しも疑ふことは出來ないであらう。體操的生活を終生連續せねばならぬことは見易い道理であるけれども之を各家庭に求めることは殆んど不可能底のことであるから、如何にしても各地の學校運動場の設備を解放して其の要求に應ずる樣に工夫せねばならぬ。動もすれば忘れられ易い體操的生活に於ても全國民の發展には憂國の志士の猛省を要する。尤も此の如きことは文部省も早く注意して運動場の解放を奬勵して居るのであるが今に其の趣旨の徹底せぬの

は何故であらう。それは何の不思議もない。學校の當事者及び管理者に體操的生活の眞義が徹底せず經費を吝み施設に工夫せぬからである。頗る遺憾なことである。

第六節　體操的生活の方法

一、創作的の體操的生活　體操的生活を創作的に進めることは幾多の困難はあるにしても可能であると思ふ。或る體育家は體操教授中は自分が生徒兒童の精神を預つて居るとて得意に話された。之は自分の思ふ存分に生徒兒童を動かすと云ふことであるが私は之を恐れる。寧ろ生徒兒童が思ふ存分に自ら進んで體操的生活をするのでなくてはならぬ。精神を教師に預けて全く受動的に働くことは以の外だと思ふ。尤も我を忘れて體操的生活に專念すると云ふのならば面白い。體操的生活を功利的に進めるのは宜しくないからである。圖畫の如き精巧な描法を有し其の描法が隨分大家によつて工夫されて居るものを創作的に學習するが如きは何人も困難としたが今はそれが出來る樣になつた。運動も創作的に工夫するものが優良な成績を擧げられることは誰も信ずる所であるが之と共に何人も最初は能く教へて漸次に創作に導かうと考へる樣である。私は最初から體操的生活を創作的に進めたらば宜しいと思ふ。勿論創作的に學習する

時に他人の指導は無くてはならぬ。學習者自ら進んで人及び物について學んでも宜しい。又習慣動作の行はれることは勿論是認せねばならぬ。創作的に努力するばかりで實際は創作的生活の創作的にならなくても宜しい。それで體操的生活の發展と云うても差支ない。創作的生活は單に試行錯誤の方法に依るものと速斷してはならぬ。然らば瑞典式體操の如き合理的教育的に組織したものを學習者は獨力で如何にして創作することが出來るか。學習者が漸次に體操的生活を進めて瑞典式體操の必要を感じ書物又は人によつて瑞典式體操を研究し之を資料として創作的に體操學習を爲すならば之を創作的學習と云うて差支はあるまいと思ふ。運動競技の如き今日は最初に教師又はコーチヤーから優秀なる型式を與へて實行させるのであるが之が模倣活動に終るならば此の方法は宜しくないと思ふ。矢張指導者の指導の下に漸次に方法を創作改善するが宜しからう。再び云ふ、此の際は試行錯誤法にのみ依るのでなくて適宜に指導を加へることは創作的學習の旨趣に反するものでは無い。

二、學習動機と興味の永續　體操的生活は發動的に歡喜的に動作するを以て根本條件とする。體操的生活も發動的精神を缺いては之を實現することは出來ない。此の發動的精神は體操的生活に興味を感ずる所から發生する。興味を以て愉快に動作すれば血液の循環はよくなる。身體の新陳代謝は旺盛になる。之を基礎として精神的道德的效果を收めることが出來る。之を以て歡喜的學習生活の全體が體操的生活だと云うても敢て差支は無い。體操科にては規律を尚び剛健の精神を養ふ必要があるから義務的に努力させるが宜しいなど考へるのは誤つて居る。元來生物は働かねばならぬものであるから人は必ずしも體操的生活を厭ふものでは無い。然るに一種の瑞典式體操或は兵式教練などを學習者に一樣に强制的に課して愉快に體操的生活を遂行させる樣に爲ないのは頗る宜しくない。若し全一的生活の內に體操的生活を高潮し劇的遊戲から身體統御の運動に及び更に競技を加へ必要に應じて教練や狹義の體操を行ふ樣になつたならば何人も好んで體操的生活を爲すことが出來る。各自が各自に適する運動を選び技漸く熟し熱心が之に加はる樣になつたならば最早體操的生活に興味の伴ふた證據である。其の體操的生活の內に冷水摩擦·步行·靜坐·精神靈動法·緊張弛緩法·自

彊術等の如き獨自で遂行することの出來る運動を含んで居るならば生涯體操的生活の興味を持續すること必ずしも困難でないと思ふ。體操運動に習熟するに至れば一擧手一投足にも快感を感じ丹田に快く響く樣になる。團體競技の如き學校時代では大に有効なものであるが此の如きものだけに依賴しては生涯運動興味を持續することは困難である。

三、學習內容の自己決定　體操的生活の內容は學習者自ら之を定めて實行するが宜しい。學習者自ら之を定めると云うても之に一定の條件のあることは勿論である。瑞典式體操の如きも各自が自分に適する樣に各運動を配列して實演するが宜しい。之は尋常小學校第六學年位になると出來る。團體的競技の如きは學習者相互の相談に依つて定めて宜しい。之が爲めには他人の體操的生活を觀るのも宜しい。書物を參考して指導者に相談するのも宜しい。體操科の學習に少しも參考書などを要しないとするのは誤である。特に衞生的思想の如きものに至つては參考書に依らねばならぬことが多い。更に適當に整理された環境は生活內容の決定に非常に必要である。何等の運動用具も設備も無い所では體操的生活の發展どころか生活內容を定立することも出來ない。生活內容の自己決定と云ふても勿論指導者は種々の環境を通じて或は直接に學習者に指導を加へ自己決定の出來る樣に爲て置いて

技術の學習に於て獨自學習の時は其の內容を獨自に定めて行くべきは論は無いが相互學習の時は協同に依つて之を定めて行かねばならぬ。今後は獨自に體操生活を爲す場合を更に多くなる必要があると思ふが由來學校に於ける體操的生活は團體的活動となつて顯はれることが多い。狹義の體操教練競技運動等に於て何れも團體的活動を要すること多い。其の際體操的生活の內容は別に考慮を要せずして定まることがあそ。此の如き時は學習者が定めることもなく教師が定めるともなく生活內容が定まつて行く。此の際は教師の方から定めても何等差支の無いことが多い。兩者の精神が殆んど一體の如くなつて居るからである。何れにしても體操的生活の全體に着眼し其の生活の目的に合する樣に內容を定めて順序を立てて行かねばならぬ。學習者の學習態度が漸次出來て來るとさほど此の如きことは困難でないが始めは十分に方案を立て指導を加へて置

く必要がある。此の時でも教師は速成法を取つて教授するのでなく漸次學習者の發展するのを助けて行かねばならぬ。

四、技術の學習　從來の體操教授は總べて說明から出發したものである。說明必ずしも排斥する必要はないが初學年から體操科の內容を體操教練・遊戲と明瞭に區別し教師が教授材料を選定し先づ說明を加へて暗記を要求するが如きは如何にも拙なる方法と云はねばならぬ。法令の體操・教練・遊戲と三者並行に規定してあつても其の材料の取り方は三者を嚴密に區別して後選定することに限つては居ない。要は三者の何れをも缺きさへせねば宜しいのである。從つて前述の如き生活內容の定め方で漸次に體操的生活を發展させるが宜しい。如何なる技術でも最初に方法を說明し法則至上の生活を要求することは技術を發展させるのに頗る有效率の低い方法である。學習者が他人から受納した概念を具體的の動作に實現することは何としても頗る困難なことである。然るに今日にては學校體操の教授に於ても體操專門家の養成に於ても等しく說明から導かうとするのは不思議なことである。尤も此の說明には示範が伴ふことが多いが示範と共に說明するのならば餘程效果は擧るが尙說明から導く色彩は頗る强い。今一つ不思議なことは何人も體操の技術の部分練習から始めて全部活動に移らうとすることである。現今に於て競技の練習の如き其の際の身體の養護の如き餘程科學的になつて結構なことであるが此の分より全に及ぶ思想は牢として拔くべからざるものがある。部分練習を爲すが如きは學習者が自ら好んで爲す場合に限つて置くが宜しい。併し環境の組織不十分で場所が狹いとか指導者が不足するとか器械器具が不備であるとか學習時間が不足である樣な場合は特別部分練習を爲して大に效果があるから部分練習は之を絕對に排斥する必要は無い。若し指導者が多數あつて學友相互の協同組織も能く出來て居て加ふるに各指導者は何れも優秀なる技倆を有し學習者の全部的の學習生活を爲して居る間にある種の活動を反復して知らず識らずの間に技術の要點に徹底して行くのならば頗る宜しい。勿論此の間に實際に就いて指導者が說明を加へることは必要なことで決して排斥すべきで無い。現時の指導法は多くは速成法であるから自ら正當な方法に依ることの出來ないのは止むを得ないが此の如き方法では全學習者を

して興味ある體操的生活をさせることが出來なくて少數のものを救ふに止まり其の救はれたものも多くは大成せずして早く發達の底止するのを見る次第である。此の如き變則な速成法を採つてもコーチの仕様が上手で嚴重で加ふるに學習者が非常な熱心を以て學習する場合は相當に成功するのは無論であるが斯くしては萬人を普く濟ふことも出來ず發達の永續も多くは覺束ないと云ふまでである。

之を要するに技術の學習は知より行に進むのでなくて行より一層高い行に進むのでなくてはならぬ。又分より全に進むのではなく全の内に分の生活を確實にし或は分の内に全を寓せしめて活動する所が無くてはならぬ。斯く云うても何事も試行錯誤の方法によらうとするので無いことは前述の如くである。大體は目的批判法に依つて行くのであるが試行錯誤法は其の補助法である。此の時に於て體操的生活は自然に創作的となり漸次に創作能を發揮する様になる。技術の指導で摸倣から創作に導かうとするのは成功する所以でない。さればとて放任は勿論悪いが指導者は學習者を創作せねばならぬ境遇に立たせ一方では體操的生活欲をそそるが宜しい。學習者が體操的生活に對する強い要求があつて指導者が最先から何物かを與へることを避けたならば彼等は自然に創作せねばならぬ様になる。形式的の體操を形式的に實行すれば自ら興味も無くなるが適當に環境を整理し自由に生活の出來る様に爲て置けば自ら體操的生活をそそる様になる。此の際尚此の欲求を起さないものがあるならば教師は氣永に之を欲する機會を捉へさせることに努力せねばならぬ。從來の様に體操と云へば瑞典式體操か兵式體操かに定めて置いて生活の様式を劃一にして行けば興味も起り難いが學習者が各自に好むものを選定する様にすれば何かは其處に捉へられる。斯くする内に容易に體操欲が出る。又此の欲は團體全體の空氣傾向に依つて大に誘發せられ或は反つて萎靡させられる。優良健全なる校風と級風とが欲しいのは此の故である。

五、體操及び競技の學習　體操及び競技に於ても獨自學習と相互學習とがある。從來は體操科に於ては其の生活が團體生活に限られた様な風であつたが今後は體操科の獨自學習の場合を多くすることに工夫せねばならぬ。瑞典式體操

の様なものでも學習者が其の基本形式と其の構成法とが理解出來て其の上適當な環境があれば其の獨自學習は決して困難でなく相當に效果も修められる。斯くして相互學習に進めば一層面白い效果を擧げられる。競技は元來團體的運動であるけれども其の部分體基礎練習に屬するものでしかも一の纏つた運動になつて居るものは十分に獨自學習が出來る。殊に運動のレコードを標準とするならば獨自學習で一種の競技が出來るわけである。彼のランニングやウオーキングの如きは其の例である。學校運動を空間的に家庭及び社會に擴張し時間的に之を卒業後に延長するには體操科の獨自學習を工夫して置くことが極めて必要である。彼の緊張弛緩法の如き一回の運動僅かに一分間でそれで效能があると云ふから何れの時、何れの場合でも行へるもので頗る面白いものであると云はねばならぬ。

體操科の相互學習には相互實演の場合と相互研究の場合とある。體操の獨自學習を過重すると此の相互學習を怠ることがある。殊に體操や教練が缺ける樣なことがあつてはならぬ。體操及び競技に於て其の實技が工夫創作的性質を持たねばならぬことは勿論だが體操科の性質としてとかく技術實演の一方に偏して創作的思考の方面の缺けることが多い。現時の體操競技は相當に科學的に研究されて居るから一般の學習原理に從ひ目的批判法に依るが上に試行錯誤法を利用すべきである。從來體操科に於て體操の本質に從ひ身體の發展に重きを置き教授段階として準備運動・主運動・整理運動の順序を取つたのは宜しいが、更に一般學習法の原理に從ひて體操的生活を爲し單に身體の發展のみに着眼せず、人生の六相を實現して全心身の發展を圖る樣に注意せねばならぬ。

體操の創作的學習は指導者の示範を否定するもので無い。學習者が技術の實演意の如くならざる時に其の技術よりも稍進んだ所の示範は體操の進歩に非常に效果がある。斯くて學習者の技術が進歩するに從ひ漸次に進歩した示範が必要となつて來る譯である。しかし之は指導者に取つて至難のことであるが指導上からは極めて大切なことである。學習者の技術よりも稍一歩進んだ示範を指導者から與へるのは學習者が企及し得との信念を得させる爲めである。然れども時には驚くべき優秀な示範も大に必要である。之に依つて學習者は種々の技

術の要領を悟ることもあらう。又體操的生活上の興味を惹起することもあらう。學習者は模範によつて自己の目標を定める譯であるがそれにしても指導者の示範は飽くまで自己の創作學習の條件でなくてはならぬ。其處にも各學習者は個性の發揮があつて宜しい。單に示範を模倣することは避けねばならぬ。指導者も先づ摸範的形式を與へてそれを實現させうとすることは避けねばならぬ。採用することの外は之を避けねばならぬ。

學習者は一人の指導者に依つて示範せられるよりも多くの人から示範せられることが必要である。何れの示範にも個性色を帶びて居るから示範者の如何によつて各自に對する有効率は異なる譯である。示範に用ひる說明語でも異なれば異なるに從ひて各學習者に影響が異なるものである。示範者は最も有効なる說明語を選擇すべきは勿論だが學習者が異なれば同一の說明語も影響を異にするから何人に對しても同一の說明語を使用して宜しい譯でない。又普通に用ゐられる說明語でも注意して避けねばならぬものもある。例せば腹に力を入れよの如きは決して用ふべき言葉でない。之と同じく示範の技術でも學習者の如何によつて異なる所がなくてはならぬ。之は實に困難なことであるから多くは學習者に技術を實演させて其の習癖と特質とを察して之を矯正し或はそれを基として適當なる示範を爲すのである。

六、體操的生活の眞價　身操的生活は公明正大で正直で全心身を緊張させたもので無くてはならぬ。其處に體操的生活の人生に對する使命がある。人は競技の時などになると我れを忘れて熱中し競技になりきる所から最も赤裸々に自己を人の前に投出すものである。競技を見て居るものも之と同樣の狀態になることが多い。從つて競技の觀覽者も競技者と同樣の學習が出來るのである。然れども自己を赤裸々に投出すことは時には甚だしき醜態暴露になることがある。之は競技に熱して醜態を蔽ふ隙が無いのである。此の際に於て若し醜態暴露が無い樣にせうと思ふたならば平素大に注意して自己に邪念の無い樣にすることは勿論、競技の際に於て自分の嗜なみを無くすることの無い樣に極力注意して相當に永い時間を掛けて練習を積まねばならぬ。從つて競技又は競技觀覽の際に如何に自己を忘れても立派に活動の出來る樣に爲つたならば人として誠に立派

なものである。競技の際に立派な自己を表現出來るものは其の他の場合に於ても尙更に立派に活動出來ることが多い。併し競技の時にのみ立派な態度が表はれて平素其の態度の現はれないものも勿論澤山ある。一般に技術家には其の傾向がある。それは其の技術表現の際は精神統一がよく行はれ平素に於ては精神統一が弛緩するからである。それで其の技術表現の時の立派な精神を普遍化して平素の行住坐臥の際に實現し得る樣に努力せねばならぬ。斯く努める所で始めて體操的生活が全人格の發展と緊密に一致するのである。右の如き環境に立つて優秀な競技に依つて優秀な全人格を表現する能力を發展させて止まぬものが所謂選手である。選手は競技にのみ優秀なものでなくて自己の心身を正しく支配し得る所の全人格に於て立派なもので之れが競技の時ばかりでなく平素に於ても其の優秀な人格實現の出來るものでなくてはならぬのは此の理由によるのである。選手は何も體操科に限るべきもので無い。フエイヤプレーも體操科のみに限るべき性質のものでは無いが各學校が特に體操運動の選手の優秀を誇るのは大に理由のあることである。

競技の學習も注意を缺くと時間や心力を過度に使用し卑劣な手段を用ひて勝負に走り或は緊張し過ぎて人格の破綻を來す樣なことがある。競技の選手となつたが爲めに遂に學業頽廢に陷る樣なことがある。競技の際は能く禮儀規約を守り紳士淑女にあるまじき事は決して行はず他人が不正を行うても自分は決してそれを眞似ず從順謙讓の美德を發揮し對手を尊敬し其の長を賞し短を擧げない美德を發揮しなくてはならぬ。互に技を角し技の優秀を競ふことは男女に於て異なる所はない筈だが禮儀作法に於ては男は男らしく女は女らしいことを切に需めねばならぬ。服裝の如きも技術そのものから決定せらるべきは勿論だが男女各其の特色を發揮しつつ然かも競技の優秀を競ふ事に於て些の差支の無い樣にすることは必要であり可能である。

七、選手の養成方法　若し選手を以て單に技術に堪能なものとするならば選手の價値は大に下落する。此の如き選手を養成するのならば學校としてはさほど努力するには及ばぬことである。從つて競技に於ては決して勝負を以て第一目的としてはならぬ。必ず眞正の運動選手を養成することを以て目的とせねば

ならぬ。彼の僅少の技術の優秀者を選出し之にのみ特別の練習を課し競技の強チームを作るが如き選手養成法は決して當を得たもので無い。眞正の選手は學校全體の體操的生活が發展した結果から生れたものでなくてはならぬ。然らずんば學校に幾流の優勝旗が飾つてあつても決して誇とするに足らない。眞の運動選手は眞の人格者であつて衆の模範となるものであつて欲しい。學業の上に缺陷のあるもの品行の上に不十分なものは選手としては尊敬するに足らない。實に眞正なる選手を得る爲めには學校全體の各方面に於ける學習態度が發展せぬ以上には到底企圖することの出來ないことである。近時學校に於て運動熱の勃興したのは大に喜ぶべきことであるが概して少數の選手しかも似而非選手、競技だけ出來る選手の養成に傾いて居るのは大に戒心すべきことである。併し現時我が國の各學校に於て此の點に注意しないものは無いのであるのに尙斯の如くなるのは玆に理由がある。それは選手の養成に良法を考へ附かないと云ふこともあるが運動場設備の不足と指導教師の不足と運動經費の不足との爲めに止むを得ず不十分な結果に我慢して居ることが多いのである。今後は努力して此等の不足を排除すると共に學級内又は學校内の競技を多くし對校競技は成るべく之を尠なくする必要がある。學校内の競技であれば極めて之を簡易に行ふことも出來る。又度數を多くすることも時間に制限を附することも規則正しく行ふことも競技の爲めに他の學習時間を侵蝕しないことも適宜に人格的指導を行ふことも頗る容易に出來る。此の際時々一二校の他校選手を招待して競技するが如きは固より差支は無い。此の如く學校内で競技を行うても指導者の指導宜しきを得れば技の上達には餘り差支はあるまい。

八、大小の運動會　現時は何處の學校でも年に一度は運動會を開催する。運動會は全學習者が體操的生活に於て苦心して到り得た所を實現して自己の眞價を知ると共に他人の體操的生活の狀態を觀照し鑑賞して自己發展に資せんとするものである。體操的生活は人生の六相を具備して其の發展は學習上極めて有意義のものであるから、運動會開催の爲めに多少の時間と勞力と貨財とを消費するは決して吝むべきで無い。只極めて經濟的に寧ろ頗る簡易に之を開催することに注意せねばならぬ。彼の運動會の裝飾などに多く費用を投ずるのは極力之

を避けねばならぬ。然れども學習者が自ら工夫して運動會に各學科に於て學習したことを利用し單に體操的生活にのみ偏せず寧ろ體操的生活を中心として全人生の實現を爲すことに努力することは推賞せねばならぬ。手工圖畫音樂を始めとして他の學科も此の運動會に役立つことは極めて多からうと思ふ。彼の形式的時間割に依つて學習することをのみ學習の本體とせず此の運動會が眞に貴重なる學習そのものに爲ねばならぬことを承知すべきである。之と同樣の意味で他の學藝會の如きも更に有意義のものと爲たいと思ふ。全學習者の眞に緊張した眞摯な運動會を開催することに依つて全校の體操的生活を發展させることは勿論、平素體操的生活に餘り興味を持つて居ない學習者の心底に潜む琴線を振動させることが出來たならば運動會の効果も亦大なりと云はねばならぬ。只此の如き運動會は各學科孤立の弊を思切つて放擲し全人生に着眼して全人格の實現に努力せねば到底擧行出來るもので無い。

又運動會は年一回の運動會に限らず、極めて簡易輕便に年中幾回も開催することが必要である。此の如き小運動會は一定の規定によつて指導教師が別に關係せずとも學習者相互の協定によつて行はれる位にして置くことが必要である。指導教師が之を監督すべきは勿論である。且つ此の際時間と勞力と貨財とを經濟的に消費することに注意することは必要缺くべからざることである。小運動會のことであれば之に參加するものも大小各適宜に制限して宜しい。決して全校の兒童生徒が參加することに爲なくて宜しい。此の如くするには平素の體操的生活と大小の運動會との關係を十分に考へて置かねばならぬ。かくて複雜な仕事も簡單に處理することが出來る。

九、指導教師　體操的生活の指導者はそれ自身優秀なる體操選手の資格を具備して居る上に體操的生活の理論に精通し且つ其の指導法に徹底して居ることが必要である。殊に心術が正しく溫情且つ溫容てしかも快活活潑で創造と活動とに富み明るい人で學習者を能く吸引する人であつて、且つ平素能く容姿を整へ無趣味、單調、殺風景なる行動を避ける人であつて欲しい。少くとも此等の諸方面に修養を進めることに努力する人でなくてはならぬ。學習者は體操的生活に於ては自己欲望の解放性を肆にし易いものであるから指導者は一面に於て人間と

しての指導機會を握る場合が非常に多くて有効な指導が出來ると共に他の一面に於ては學習者を指導するのに困難な場合の頗る多いことを思はねばならぬ。それに一人の指導者で衞生の各方面に精通し之と共に各般の運動遊戲、競技等に對しそれぞれ堪能なる技倆を有することは假令小學校の兒童を指導する程度に於ても決して容易なことで無い。何學科でも優良な教師を得ることは困難であるが其の中でも優秀なる體操指導者を得ることは最も困難である。前にも云へる如く體操科に於ける選手は人間の選手だからである。從つて教師として體操的生活の指導の出來ることは頗る意味のあることで、如何に優秀な教師と云はれる人でも體操的生活の指導の出來ない様では如何にしても學習指導上に一大缺陷を具有して居ると云はねばならぬ。それ故に十分に體操的生活の出來ない教師又其の指導の出來ない人は環境の力によつて自己の不足を補ふ方法を工夫せねばならぬ。實は體操專門の人でも體操的生活上の各般の要求を充たすことは決して容易でないが他學科を擔任する教師に於ては尙更に容易でない。茲に於て學校に體操的生活の爲し得る組織の立つて居ることが第一に必要である。

第二には教師相互にその長を以て協同することである。

第三には學校以外の人から輔けて貰ふことも必要である。

併し如何なる教師でも體操的生活の必要を痛感し平素その修練を怠らず又能く各自の短所を補ふ方法を講じたならば學習指導に於て多く缺ける所が無からうと思ふ。今日我が教育界に於ける一大通弊は各教師が眞に體操的生活の必要を痛感して居ることが割合に尠ないことである。體操尊重の思想は本統に缺けて居る。

合理主義の教育が排斥せられ非合理主義の教育が勃興せんとする時に於て精神偏重、身體偏輕の思想を排斥し寧ろ心身一如と觀じ如何なる生活にも心身相即の活動を重視する時に於て、世界の大戰後各國漸く體育に醒めて大に體操的生活の發展を圖らんとする時に於て、教師でありながら體操的生活を重視することが出來ないものが澤山あることは實に痛嘆すべきことである。此の際教師は十分に自己を反省すると共に十分に學習者の體操的生活を指導し單に體操的技術の堪能のみに着眼することなく、それと共に全般の衞生にも注意し結局に於て體操

的生活の發展如何と深く考察すべきである。

第十二章　修養的精神の發揮

第一節　序說

一、修身教授と訓育　從來は小學校の教則に於ける修身の規定は修身教授に關するもので主として道德に關する知識を授け兼ねて道德的情操を涵養し實踐躬行を勸奬指導するものとした。道德的の知識と感情とでは道德的品性を陶冶することが出來ないから別に訓育を立てて道德的行爲を反復實現して道德的習慣即ち品性を陶冶するを以て其の任務とした。此の訓育と修身教授とは相待つて道德的修養の效果を完うするものと爲た。然れどもこれは教育方法多元說を基礎として教則を以て教授の規則としたものであるが私は寧ろ教則を教育の規則と解し修身科は道德に關する知識方面と實行方面とを包含したものと解釋するのを至當と信ずるものである。研究上此の兩方面を區別して考へることは何等差支ないが修養の實際から云ふと此の兩方面を纏めて考へて置く方が修養上

有効であつて且つ道徳の實行方面を閑却せられる危險も尠ない。教則にある徳性の涵養は單に知識教授によつて得られるもので無く實踐の指導も單に言語に依るものでは效果頗る薄弱と云はねばならぬ。修身科は單に教授のみに關するもので無いと考へねばならぬ。

修身の場所を學校に限る必要はない。修身の時間を時間割上の毎週幾時間に限る必要も無い。修身は生活の全體に普遍して居るべき筈である。教科課程表に定めてある修身教授時間は修身的生活の中樞を爲すものと考ふべきであらう只教授時間としてあるが爲めに修身科は道徳の知識的方面に關して取扱ふものだと考へる必要もない。他の學科に於ては教授中に實行を含むで居るものが澤山ある。修身は學習者の學校内外に於ける全生活に關係して學習すべきである學校の規定の修身時間には廣い修身生活を背景として特に修身學習を爲すものと考へた方が實際に於て修養に有効である。從來往々修身科の無用を稱へられたのは恐くは修身科は道徳の知識的方面を取扱ふものだと考へたことが大きな原因を爲して居るのであらう。

本書は學習方法一元論の上に立ちて修身の學習には道徳の知識方面も實行方面も共に之を包含して居るものと見て議論を進めるものである。

二、道徳は生の要求に基づく　生は萬人の痛切に要求する所である。且つ人は時間空間に亙つて靈肉一致の無限的生命を希求する。されば人は自己及び種族の保存發展の欲を基調として各種の欲望が強く作用する。元來欲は盲目的に發動する性質のものだから一貫の原理によつて之を統御しないと自我の一部分が勝手に實現することが多い。此の分我表現は必ずしも生の發展を害するものでは無いがそれは寧ろ偶然であつて多くは生の發展を阻害するからそれは惡である。分我表現を否定し欲望充足のあらゆる條件を考へて無限的生命を完うせんが爲めに自我全體の本性を發揮することは人生の目的だからそれは善である。無限に發展する生命は萬人の最高要求で之が爲めに各個人は同心一體になれる。之によつて社會と個人とは全と分との關係を持つて居る。之によつて自覺せる個人は自己を社會化し社會の進歩發展を以て衷心自己の要求とする。眞に社會化したる自己は有限にして無限である。又無我であり無私である。之を徹底し

た自己と云ふのである。此の如き自己には强烈なる實現性があつて之を實現することに依つて滿足を得人生を幸福ならしめることが出來る。然れども分我實現にも眼前一時の滿足はあるから修養未熟の人は分我實現の滿足に囚はれて全我實現の永久的滿足を得ることが出來ないのである。全我實現に依つて自我は益〻擴張し發展する。自我の擴張は同情の擴張であるが人は之に依つて祖先、子孫、社會、國家、人類に合體し之と利害休戚を共通する樣になる。此の如くにして人は自ら全我實現を行ふと共に他人にも全我實現の滿足を得させなくては滿足が出來ない樣になる。少なくとも他人に迷惑をかけることを衷心好まない樣になる。かくして自我は漸次に徹底し安心立命の境涯に住して不斷に生の發展を圖る樣になる。

人が一貫の原理によつて欲望を統御して生命の創造發展を圖る所に道德がある。實に道德的行爲は生命の要求に基づいて出來たものである。されば人は全我實現即ち道德を實行することに依つて現實の生活價値を感ずることが出來る。人は道德を行はねば居られない苦のものである。單に社會の因襲的習慣に依つて生活するのでは無意義である。同じく道德でも律法的道德は價値が乏しい。生の要求に依り感激を以て歩々道德を實行し生の價値を感ずる所に誠實無私の努力がある。日常の行爲が極めて誠實になればあらゆる障害と强迫とを排除して進むことが出來る。日常の些事も悉く生の要求に觸れ生の興味となり有意義のものとなる。茲に於て眞に人生の幸福が得られる。若し我々が現實の生活に價値を感ずることなく義務の爲めに義務を行ひ單に律法を以て日常行爲を律する樣になつたならば人は罰を免れて恥づることを知らぬと云ふ狀態になる。

三、人は道德を好む　多くの人は仕方なしに道德を行ふ。道德を窮屈なものだとすることは決して珍らしくない。然れども人間の本心は道德を好嫌なものである。人は誠實無私の道德的行爲に對すれば恍惚として私を忘れんで居るのである。平素は分我の活動旺溢して精神が統一して居らぬから他人の心魂を奪はれる。平素は分我の活動旺溢して精神が統一して居らぬから他人の德行にも感心せず自分も惡行を平氣で爲す樣なことがあるけれども不圖としたことから氣が附けば至誠の偉力に壓せられ感歎を禁ずる能はず覺えず涙を流すと自分も斯くありたいと痛切に求める樣になる樣なことがある。更に一轉すると

德行を實行せねば氣が濟まぬ樣になる。此の正念持續すれば眞に結構だが多くは精神の統一が亂れて復もとの淺ましい委に歸へるのである。誠に惜しむべきことである。されど人には此の尊い精神があるから子供も能く大人を淨化することがあり妻の赤心能く不德の夫を動かすことがあるのである。子供と云ひ妻と云ふ恐くは完全無缺のものではあるまい。それでも彼等の行爲には時には至誠の閃くことがある。大人や夫が其の閃光に打たれて淨化されるのである。人が眞に生の發展を欲し人性の本質が善でなくては恐くは此の如き淨化作用を起すことはあるまい。人は德を好む。德を好むことの出來ない人は自己の本性を壓抑して居る憫むべき人である。人は德を好み得る境遇に自己を置くことが必要である。人を指導するものは先づ德を好み得る境遇に人を導き德を好み得る心を育てねばならぬ。

四、人は德を樂しむ　德は生の要求に基づいたもので人は須臾も德を離れることは出來ない。人の生活と離れて差支無い樣なものは道德でない。實に人道は脚跟下にある。踏まうと思へは誰でも踏めるのが大道である。古人も道は近きに在り却つて之を遠きに求むると戒めた。道を遠きに求むるは古今の通弊である。脚下の大道を踏んで進むのが德行である。德行を徒らに高遠なるものと考へるから人は德を樂しむことが出來ないのである。德行即ち善行を本務以上のものと考へるのが誤謬である。本務を履行することが直に善である。各々は常に善を行うて居る善人である。吾々は固より不德に陷ることがあるが德行必ずしも困難でない。只善を行はうと思へば善が行へるのである。然るに善を行へば良心の賞讃を受ける。良心の賞讃は人生最高の愉快であり誇りである。吾々は何れも斯くして德を樂しむことが出來る。普通の人ならば惡を行ふことは善を行ふことよりも困難である。只遺傳や環境の都合上善を行ふ氣分になれない運命を持つて居るものがある。然れども人は渾身の勇氣を揮つて此の運命を捨て更に立派な運命を立すべきである。これ必ずしも不可能なことであるまい。

飜つて考へて見ると脚下の大道も案外に踏み易くない。分我常に踊跳して全我容易に實現しない。先づ第一に善を行ふ氣分になれない。德を高遠なりとし

道を遠きに求むるのも止むを得ない所がある。然れども之は修養の道を誤つて居るからではあるまいか。德行の必要も善行の興味も感ずることの出來ないものが道德を行はねばならぬことになると社會の道德的慣習か古聖賢の道德律か指導者の命令に從うて行かねばならぬことは勿論である。元來道德は生を創造する行爲でなくてはならぬのに斯くなつては他律的の道德となつて漸次道德の眞義に遠かつて來る。道德の眞義を理解せず、恰も小禮曲謹を以て道德の全體の如く思ひ更に普通の生活以外に一種高尙なる道德的生活がある樣に思ひ其の小禮曲謹を義務なるが故に實行せねばならぬとしたならば德行は實に苦しいものに相違あるまい。小禮曲謹も敢て必要が無いのでは無い。小禮曲謹を無視すれば人生に恐るべき破綻を來すであらうが小禮曲謹を處理するには自ら方法がある。之を强迫されて實行しても修養に益する所は甚だ尠くない。思ふに道德の眞義を理解し道德は單に消極的拘束でなくて生の發展を圖る積極的活動を主とするもので吾々は不斷に善を爲しつゝあることを悟了したならば人は德を樂しむものであることを了解することが出來る。

眞の道德は自律的で且つ創造的でなくてはならぬ。生活の發展には其處に創造がなくてはならぬ。自律的であれば其の結果に於て功過共に責任を感ずることが痛切である。責任感の强いものは行爲の結果に於いて苦痛を感ずることも多いが德を樂しむことも痛切である。文明の進步に伴ひ人々の自我が發展すれば他律的には行爲することを好まぬ樣になるから今後は此の點からも自律的道德の發展を圖らねばならぬ。文化の進步と共に社會何れの方面に於ても自治が行はれる樣になるのは此の理由である。

實際に於ては他律的道德を全く排除することは出來ない。又他律を自律に變化して自由の服從を爲すことも出來る。然れども成るべく環境を整理して初學年から自律的道德の進步を圖ることが必要である。

第二節　修身學習の要旨

一、修身の要旨　修身は學習者自ら道德的生活を爲し教育に關する勅語の旨趣を體得し修養的精神を發揮することに依つて常に自己の進歩發展を圖ることを要旨とする。

敎則に於ては修身の敎育要旨を定めて

修身ハ敎育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ兒童ノ德性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス

と規定して居る。兒童自身から云へば修身の學習要旨に依つて學習すれば最も能く此の敎育要旨に徹底することが出來る。

德性は道德心即ち良心的活動である。之を道德的品性と云うても大體に於て差支は無いが實は道德的品性は常に良心的活動を爲す習慣である。修養的精神とは常に良心的活動を需めて止まぬ精神で換言すれば德性涵養の精神である。良心は道德的行爲を對象とする心意の全體を指す。行爲は意志的動作であるから心身の作用を包含して居る。良心的活動を分解すると左の諸作用になる。

1、道德的理想を構成し本務を認知し善惡を判斷すること。

2、本務の感即ち拘束の感と滿足及び悔恨の情を起すこと。

3、決意を持續し止惡修善の努力決行を爲すこと。

從つて道德的行爲は心意の全方面に關係して居る。道德的行爲を反復實行して漸次に道德的品性が成立する。良心的活動は活動愈多くして發展は愈大となり活動愈少なくして發展は愈小となり遂には良心活動が銷磨して其の作用を無くする。實に修養は良心の聲を聽いて忠實に實行することに依つて成り良心の命令に背くことによつて敗れる。修養の要訣は玆にある。修養者は此の樞機を確と捉へて邁進せねばならぬ。此の一本散じて萬殊となる。

行爲の成立は次の順序による。

1. 行爲の動機と志向との確立
2. 運動觀念と結果觀念との添加、
3. 實行の時期到來と觀念して行爲發現する。

之を以て道徳の實行には次に述べる諸要素を結合せねばならぬ。

1、道徳的理想と實行方法
2、道徳實踐に必要なる科學及び常識
3、各自の環境及び個性に對する考慮、
4、從來の經驗
5、道徳實現の技術
6、身體の活動

道徳實踐には獨、道徳的の知識技能のみで無く他學科全體に關する知識技能を必要とする。而して道徳實踐の必要條件は世の進歩と共に進歩する。此の故に倫理學者必ずしも道徳家とはなれぬのである。

道徳的行爲は道徳を知ることに依つて其の進歩を輔けられることは勿論だが道徳的行爲そのものの修得は如何にしても行爲することに依つてのみ仕遂げられる。徳は敎へることが出來ないとは此の意味である。所謂修身敎授の如きは修身の一部作用と解すべきである。實に修身は人間全生活の上に樹立せられねばならぬ。道徳修養は學習者自ら道徳的生活を爲すことによつて開展する　敎授により觀念上から情意を惹起しても實行に對しては力弱い。道徳實行上より得たる情意は有効である。之は師弟共に留意すべき所である。

修身が學習者の全生活上に樹立せられるものとすれば學校生活殊に正課時間中の生活は其の中心となるものである。學校生活にも修身の時間と他學科の時間とがある。之を延ばして家庭生活と社會生活との時間がある。學校敎育時代の生活から補習敎育時代の生活に及び更に自己の職業によつて人格を發展させる時代に及び修身は連續する。學校生活中の修養は他の生活を背景として實現するから單に言說上の修身と見えるものも單に言說に止まるもので無い。まして其の言說による研究が直に學校内外の生活に於ける修養と關係するのである。

學習者は漸次に道徳生活を發展させて敎育に關する勅語の旨趣を體得し實行することが出來る樣にならねばならぬ。即ち皇運を扶翼し奉ることの出來るものとならねばならぬ。これ我が國の敎育上根本的に大切なることである。

徳性涵養は幾分かは知的敎授に依つて遂行出來るが道徳の實踐を外にしては

到底徹底するもので無い。實踐の指導は知的教授によつて指導することは出來るけれどもそれには道德實踐の背景があることが必要である。そればかりで無く實地に道德的生活をさせて其の實生活の上に指導を加へると更に有效である。實踐の指導を以て單に言辭上の勸奬誘導と見ないが宜しい。從來の如き修身教授ならばそれも止むを得ないが學習法では修身科の學習も一の意志的活動である。更に其の他の生活も意志的動作にして常に之を道德修養的に眺めて行くのであるから實踐の指導は言辭上にもあるものと考へて差支あるまい。

二、**道德の創作的學習**　良心の素質は生得であるにしても經驗を待たねば良心的活動は發展するもので無い。道德的意識は漸次に發展するものであるが個人によつて其の發達に遲速はある。概して云へば人は始は單に主觀的情意に支配されて行動し快なる行動を善とし不快なることを惡とする。それと共に漸次に客觀的の道德律を承認し之によつて行爲する。此の際他律的行爲の多いことは勿論であるが學習者は自ら進んで其の承認した道德律に自由の服從を爲す樣にせねばならぬ。且つ社會的に生活の發展を圖らんが爲めに種々に工夫する所から自他共に守るべき法則を發見する。不完全ながら自律的創作的の道德的生活が玆に開けて居る。此の道德的生活を發展せしめんが爲めに指導者は努力すべきである。然るに自我未だ發展せずして容易に他律的に行動するが故に指導者は此の時期を他律的行爲を爲す時期として徒らに他律的に活動させるのは甚だ宜しくない。小學校は其の初學年から此の不完全なる自律的生活を漸次に發展させる所で宜しからうと思ふ。即ち環境を整理して自治的に協同して行く樣に努むべきである。自由の服從を要求して行くべきである。修身の目的は單に傳統的道德的の生活を反復實行することを主とするもので無くて道德的生活を不斷に進步發展させることを主とするのである。學習者が他律的模倣的に活動しても尙幾分の道德的生活の進步はあるが無限の進步は適當なる指導の下に適宜なる資料を以て工夫創作的に行爲を實現するので無くてはならぬ。人或は修身に創作を恐れるものがある。其れ等の人は創作的修身などは何處に歸着するかわからないから修身は如何にして能く國民道德を理解せしめ之を實行し得る樣にせねばならぬと考へる。然れども創作的修身なるものは決して文藝上の創作の樣な

ものて無い。必ず我が國の國家社會の內にあらゆる環境を活用して創作的修身を實現し自律と協同とを尊び歩々に生活の發展を圖り我も人も皆共に人らしい生活を遂げようと云ふのだから那邊に歸着するかわからんと云ふ樣なものではない。又實際の結果から見ても何等の心配は無い。生活の進歩に伴ひ一般に判斷力は進歩し道德を解することは深くなり自律の程度漸く高くなる。

小學校の上級になると內臟機關の發達と共に情意作用も旺盛となり往々意馬心猿が狂ひ出して承知しながら惡を行ひ或は情に沒頭して盲目的に活動し自治は放縱に化し規律は無視せられる樣なことがある。此の時に於ては學習者の精神は動搖不定であるから進歩も出來るのだから根氣よく修養して良心的活動を爲し道德を愛し自主的に活動の出來る樣にならねばならぬ。小學校卒業後も此の修養を繼續して絕えず自我を發展させて行くことが最も必要である。此の如きことは創作的修身の習慣あるものにして始めて能く出來ることてある。

三、聖に入るの秘訣　修養の意義は種々に表はせる。修養は苟も良心の命令とあれば必ず忠實に之を實行することだと云うても宜しい。又修養とは自分の時々有てる美しい心を少しても永く繼續することだとも云へる。更に具體的に云ふと怒り易い性癖の人が絕對に怒らぬ習慣を養ふことだとも如何なる場合にも必ず念佛を稱へることだとも云へる。此の外更に澤山の表現の仕方はあらう。此等の內何れにても最も自己に適するものを定めて常に之を念頭にかけて忘れないのみならず遂には期せずして修養を實行して居る樣にならねばならぬ。如何に修養しても歸する所は誠を離れない樣にすることてある。誠は良心作用を常に實現して行く習慣である。常に誠なるものは之を聖と云ひ時時誠なるものを凡と云ふ。聖と凡とは拒斥概念ではない。共に誠なる時は聖と凡との區別は無い。聖人の如き行爲は決して凡人の生活には這入らないものではない。何人も聖人の心になつて聖人の事を行ひ渾身の勇氣を以て私欲の奴隷となることを避けたならば遂には聖人となることが出來る。聖凡相距ること遠くはない。聖人は學んで至れないものては無い。或人が聖に入るの秘訣は聖人の心になりて居候ふことなりと敎へたのは大に意味がある。

四、興國的道德　習慣的道德を墨守し律法的道德を尊重するものは過失も尠なく規律的に活動して他人に快感を與へるから偶〻大過があつても世人は之に對して餘りに寬容である。止むを得ないことであると之を辯護して曳れるものもある。然るに積極的に善を行ひ自己改造を圖る人は過失も多く不規律に流れることもあつて時としては他人の感情を害し無作法無禮傲慢だと考へさせることが多い。此の如き人に對しては世人は餘りに狹量で過酷に非難する。一代の奮鬪に依つて大事業を爲した人は多くは非難の的となることがある。之に反して敢て大事業を爲すでもなく只習慣的道德を墨守して過誤なきものは多くは人物だと推賞せられる。之を以て往々立派な人物なる語は無能の別名であることがある。從つて消極的に生活して破綻を表はさない樣に努力する人が多くなる。これ果して興國的道德であらうか。吾々の三思せねばならぬ所である。今や消極主義困難回避主義の生活法は至る所に行はれて居る。小過を宥恕して積極的に創作的に奮鬪努力して生活改造を圖る人を尊重せずば國も家も危い。吾々は興國的道德の勃興を望んで止まない。世は善人と稱しても何等爲す所なく遊手徒食する樣な人は決して道德家でなくて寧ろ惡人である。假令少々缺點はあつても大にとがむべきものでなかつたら之を宥恕し常に發展して止まぬ所に賞讃を吝まない樣にせねばならぬ。

五、教育に關する勅語と詔勅　我が國に於ては修身は教育に關する勅語の體得に努むべきことは勿論のことである。之に依つて國民道德に徹し日本民族の發展に忠實ならんことを期せねばならぬ。毎日皇運を扶翼し奉る所の念願を心頭にかけて努力すべきである。勅語を暗記して之を實現せうとするのも一方法にはちがひないがそれより誠意を推して事を行へば自ら聖旨を體して居ると云ふ樣にならねばならぬ。

教育に關する勅語には「之を古今に通して謬らず中外に施して悖らず」と諭されて居るが此の旨趣を貫徹するのには時所の異なるに從ひ自ら異なるものがある。茲に於て此の勅語の旨趣を奉體するには戊申詔書と日獨媾和の詔勅と國民精神作興の詔書とを深く省察することを忘れてはならぬ。而して學習者は自己の住する家族社會國家の現狀を考へ更になるべく深く現在の自己を省察して其の改

善を工夫する所から出發せねばならぬ。修身は道德を知るに終らないで家族・社會・國家及び自己の改善そのもので無くてはならぬ。此等の詔勅は現時に於ける此の改善についての御諭である。

人は社會的生物で各本具の本能を社會的に人らしく充足することを好むものであるから人は如何なる道德的生活に於ても協同の美德を離れてはならぬ。協同の德は幾多の道德を派生する。即ち幾多の道德的法則は之から生れる。協同は雷同に陷り易いが眞の協同は人々の自律即自由と德と相待つて行はれる。自由は責任の由て生ずる所で自由が無くては眞の道德は行はれない。此の協同と自由とを眞劍に純一無雜に行ふ良心作用の習慣を誠實と名づけるが結局人は誠であれば宜しい。之が爲めには遑遑なく日常生活中に協同と自由とを實現することに努力せねばならぬ。

君に對する誠を忠と云ひ親に對する誠を孝といふ。忠孝は我が國民道德の大本で諸德の總名であるが其の忠孝も時勢の變遷に伴ひ多少其の性質を異にする。封建時代の忠孝は受動的であつたが立憲時代の忠孝は發動的である。發動的の忠孝は自ら進んで捧げる忠孝で命ぜられて行ふ忠孝では無い。

更に封建時代の忠孝は多く國內に限られて居たが現時は國際協同主義が行はれて人類愛が高調せられる樣になつたから忠孝の性質が多少變化せねばならぬ樣になつた。思ふに現時は自國あるを知つて他國あることを知らない樣では決して自國の進步を圖ることが出來ない。國際協同主義に從ひ天地の公道に倚り東西相共に文明の惠澤を共にせうとするので無いと國家の發展に貢獻することが出來ない。之と共に人類愛に燃えて我も人も盡く人らしく生活することに努めねば自分の人らしい生活を完うすることが出來なくなつた。之と共に各國民が十分に國運の發展を圖ることが出來て始めて國際協同主義も十分に行はれることも篤と考へねばならぬ。

第三節　道德的生活と他の生活との關係

一、道德修養と日常の全生活　道德を以て人生六相の一と觀ずれば道德は經濟、藝術宗教などと對立するものとして考へることが出來る。又修身を以て諸學科中の一とすれば修身を他學科と併立させることは勿論出來る。然れども人生の六相は互に能攝所攝となるものであるから道德的行爲ではあるが經濟の理法に適ひ經濟的行爲ではあるが道德の理法に背かないと云ふ關係が無くてはならぬ。之を諸學科について云ふとも諸學科に於ける生活は悉く道德律に合し道德的生活の內には諸學科の生活が適當に表はれねばならぬのである。即ち道德修養は日常の全生活の上に樹立せらねばならぬので道德的生活が他の生活と離れて存在するものの如く考へるのは大なる誤である。吾々は苟も有意的動作を爲せば其處に必ず善惡が作ひ修養はある譯であるから日常普通の生活を離れて特に道德的生活が在る理由は無い。修身以外の學科について學習すれば其の間にはあらゆる道德生活を含むことが出來る。競技中には實に澤山の道德が現前する。斯く考へると特に修身科などを設置する必要は無い。併し日常行爲中にも親に奉仕するとか他人に親切を爲したと云ふ樣な場合は特に道德的意義を强調させて他の生活の意義を沒却して考へられるのと今一つは道德の理論と實際とを纏めて學習する必要があるが爲めに特に修身的生活が別に在る樣に考へられるのである。

右は修養生活を他の生活內に攝取する考へ方だが之と共に人は誠なれば足るとも考へられる。誠實の人が法律經濟を無視する筈もなく自ら學習して自己を發展させることを怠ることも無く何事に對しても渾身の努力を吝まない譯である。只道德生活に於ては動機と志向とが善であれば其の結果は如何になつても善行爲と認めるから不經濟な行爲を實現しながら之を經濟だと思ふて誠實に實行した時には尙善行爲とせねばならぬ。然れどもそれでは經濟的生活から云ふと不滿足であつて是非共その行爲を經濟的にせねば滿足は出來ないのである。從つて人生には經濟生活と道德生活とは對立する樣になるのである。之は一例であるが人生は道德以外の諸法則に適合することを要求しつゝ誠實を以て一貫

するより外に方法は無いのだから人は誠なれば足ると云うても差支は無いと思はれる。人は誠實又は道德修養を中心として各種の生活をすれば宜しい。此の點から學習は誠實を以て基調とする。誠實の無い所には學習は成立しない。

二、道德生活と他の生活　人生各般の活動は何れも道德生活の内容だとすれば學習上修德は極めて大切なことである。

道德的生活はそれ自身直に社會的生活でなくてはならぬ。道德は社會あつて始めて其の意義を全うする。愛に徹して社會の發展を圖るところに道德は存在する。之が爲めには誠意を以て自律的に協同的に活動せねばならぬ。此の自律と協同とに徹底することが修養の二大眼目である。自律と協同とによつて社會の發展を圖るには法律生活及び政治生活の内容に通じ且つ之を實現する所がなくてはならぬ。兒童は直に國家の政治に參與することの出來ないのは勿論だが各自の所屬團體の發展を圖ることには大に努力することが出來る。

道德生活と特に密接の關係にあるものは經濟的生活である。道德は動機を重視し經濟は結果を重視するが道德は經濟の爲めに其の實現が可能となり容易となることが多い。經濟も亦道德的精神によつて發展する。貨財を消費する際に人々皆之を社會の爲めに有效である樣に爲すことを旨とするならば獨りそれが道德的生活であるばかりでなく實にそれによつて經濟の發展が圖れる。

道德と文藝とは往々相反する樣に考へられるが二者決して背反するものでは無い。文藝は人をして人生の本義を味はしめるものでなくてはならぬ。文藝の使命は結局社會文化の創造に寄與するにある。文藝の爲めの文藝でなくて人生の爲めの文藝でなくてはならぬ。勿論文藝を以て勸善懲惡の具となさうとするのでは無いが文藝には往々道德に背反することを掛念しないものがあるから大に注意して文藝を取扱はねばならぬ。眞に社會を讀み社會を解し人生の向ふ所を感得するのには文藝與つて最も力がある。

道德と宗教との關係は既に述べた如く實に密接なものである。道德と宗教とは其の主とする所は勿論異なつて居るが道德の修養によつて漸次に宗教に進み宗教的體驗の進むに從ひます〳〵道德の進步することは明かなことである。宗教も道德も人生の自然に基づく。二者相伴うて伸展する。

三、修身と他學科との關係　如何なる學科の學習にも必ず誠實を要求せねばならぬ。自律的に學習することは有意的の動作であるから必ず善惡の何れかの性質を具備する。此處に自律と協同とが十分に行はれる樣にすることは頗る大切なことである。算術理科の如きは道德的方法を立てるに缺くべからざるものである。地理歷史は之を學習することによつて社會國家人類に對する愛情を養ひ其の發展に努力する樣に出來る。其の他技能的諸學科は直に修養の資となり或は修養となることが多い。特に體操科とは密接の關係がある。體操科は身體的活動の方面を主として心身合致の妙境に達するものならば修身は精神的活動の方面を主として心身合致の妙境に達するのに其の關係特に大なるものがある。各學科の學習にはそれぞれ直接の目的があつて常に修養方面を意識して居るものでは無いがその學習的活動が道德の法則に違反してならぬことは申すまでも無い。

第四節　修養的生活の內容

一、現代の要求する人物　學習者は教育に關する勅語竝に之に關係ある詔勅に基づきて國家社會家族及び自己に對する責務を盡して自己の發展を圖る所の修養を爲すべきは勿論である。此の如き修養生活を爲す上に於て現代の日本人が特に要求せられて居る所を列擧してみよう。

(二)　自我を擴張せよ　現代人は教育の進歩のために覺醒した自我を持つて居るから自己滿足を切望し漸次に個人主義に傾いて行くが個人主義は取るべきで無い。然れども此の一般の傾向を無暗に壓伏せうとしても出來ないことである。元來個人主義も自我の發揮を目的とするもので必ずしも利己主義で無いのだから修養によつて自我を擴張し自我を社會化して行けば遂には社會的自己の發揮となり自己の滿足は同時に社會の發展となり徒らに自由解放を求めて放縱となり利己的となる樣なことが無くなる。茲に始めて皇室を中心とする一家族大主義が合理的に實現せられ家族主義の短所を避けることが出來る。

(二)　人類愛を發揮せよ。深く自國を理解し熱烈に自國を愛することは我が國の現狀に於て特に大切である。國民互に民族的精神を發揮して億兆心を一にする必要は今日に於て特に痛切である。之が爲めに國力の發展を圖るためにはあらゆる工夫と努力とを吝むではならぬ。然れども今は競爭の文明よりも協同の文明を重視する世の中である。人類互に協同して其の福利を圖るべく痛切に要求せらるゝ傾向がある。從つて國際道德が漸次重んぜられる樣になつた。國際協同の精神を沒却して單に自國の發展を圖るが如きは出來ることでも無く假令出來ても自我の發展したものの滿足することの出來ないことである。されば世界主義も宜しくない。吾々は個に徹するは全に徹する所以であると云ふ理法により誠意を以て自國の發展に盡すことが同時に人類の發展になる樣に活動せねばならぬ。自國を愛せずして一躍人類を愛することは不可能底のことである。

(三)　立憲的に行動せよ。忠君愛國の精神に富むことの必要は云ふまでも無いが其の精神の實現方法は自ら時代によつて異ならねばならぬ。就中立憲的に行動することが其の一である。立憲的行動とは自律的に協同的に發動的に國家社會に盡すことである。此の際强き責任心を發揮すべきことは勿論更に創作的に立憲的行動を爲せば頗る現時の要求に適合して居る。國憲國法を愛して自由の服從を爲すが如きは自ら立憲的行動に伴ふことである。

(四)　經濟的に行動せよ。現時の國勢は大に經濟的獨立と發展とを要求するが單に經濟的法則に從うて活動することは修養でない。國民が各自の貨財を最も有效に使用し浪費せぬことが道德的義務だと心得て其の精神實現が出來なくてはならぬ。此の義務を果たすことは修養上非常に必要なばかりでなく又實に經濟的發展に必要である。此の一事が或は人類の福利增道に大關係を有するにあらずやと思はれる。經濟が道德と離れてば富國と共に弱兵となり或は經濟的生活の爲めに物質生活に眩惑し精神的生活を沒却する樣なことが起る。經濟的法則を知ることも道德的責務を知ることもさほど難事でないが二者を統一して實行することは至難なことである。只自律創作の學習法に於ては之を實行する機會頗る多いことを便利とする。從來の敎育法では之を實行する機會が頗る乏し

かつた。此の種の實行は學校内の生活だけでは困難である。時所を通じて一貫する學習法に依つて之を學習者の全生活に求めねばならぬ。

(五)　兩性相互に理解せよ。人に兩性あるのは各其の本性を發揮して互に協同し以て人類の福祉を圖るに便せんが爲めであらう。之が爲めには男は女を理解すると共に女も男を理解し男は男らしく女は女らしく活動し相共に自己の人格を發展せしめ相互に敬愛信賴して生活する所が無くてはならぬ。男尊女卑、女尊男卑共に宜しくない。今後男女の生活内容は益接近して來るであらうが結局に於て女は女であり男は男であることを沒却してはならぬ。即ち兩者の生活發展形式は異なつて宜しい。男女共に作法を學習すべく又其の背景としては敬意を存すべきは勿論だが作法の形式に於て男女の差を沒却すべきで無い。兩性道德は今後恐くは變化するであらうが其の變化の方向を誤らぬ樣にすることが必要である。兩性道德の發展は單に思慮では解決出來ないから其の生活法に於て更に工夫する所がなくてはならぬ。此の點から男女共學の如きは愼重に考慮すべきことであらう。

六)　恒常的に發展せよ。人生に發展なくば生命なきに近しである。人生の價値頗る低いと云はねばならぬ。恒常的に道德的に發展を爲すことは不斷に自我を擴張することである。恒に道德的に發展することは決して容易で無いが常に發展に努力する所に價値がある。其處に人生に緊張がある。緊張とは張りつめて少しも餘裕の無いことでは無い。伸び伸びした餘裕のある生活の内に弛みなく進歩を圖ることである。人生に此の緊張あつて人は生活苦を免れることが多い。よしや生活苦はあつても其の内に快感を覺えることが出來るものである。常に發展せんと欲するものは自分の仕事は自分で統一して居らねばならぬ。徒らに他人に驅使されるのでは其の煩に堪へないことになる。假令他人の束縛を受けて働く時でも尙其の任かされた範圍内にて十分に自律的行動の出來る樣に修養を爲て居らねばならぬ。

二、修身教科書の活用　學習生活が人生の各方面に觸れて發現する樣になれば其の間に各方面の修養的機會が發現することは見易き道理である。其の機會を捉へて修養すれば別に修身教科書は要らぬ樣である。殊に修身教科書があれ

ば從來多くは學習者が其の記載事項を理解し記憶することに努めて一向に修養に關係させない憾みがあつた。且つ其の教科書は多くは簡潔に要領が記述されて居るから無味乾燥で讀んで人を感動させることが尠い。從つて之を使用するものをして其の教科書の使用を嫌はせる樣なこともあつた。

併し飜つて考へてみると之は餘りに教科書に依頼しすぎた見解であるまいか。勿論教科書の文章は趣味があつて多少詳細な方が宜しいけれども、さればとて餘り詳細なのも宜しくない。修養生活の内容は自ら基づく所は一定して居ても其の範圍は廣く若し教科書が無いと修養に缺ける所が出來ないとも限らない。修身教科書に記述してある順序は大抵は學習する順序でない。修身教科書は之を讀んで記憶する性質のものでなくて修養生活の發展を助ける性質のものである。若し學習者が教科書から學習問題を探出し或は實際生活を教科書によつて助けるとしたならば現時の教科書にても十分に活用する途がある。教科書があつても決して邪魔にはならぬ。吾々は教科書の活用に工夫せねばならぬ。

教科書を活用するには教師は左の各項に留意しなくてはならぬ。

1、教科書の要領を把捉し、時所・人の三方面から之を深化すること、
2、德目の概念を明瞭判然ならしめ、人物は之を具體的に想像すること、
3、材料相互の關係を明にし同一の德目にても卷を追うて内容が發展して居ることを注意すること、
4、學科に對して感興と信念とを喚起すること、
5、學習者は其の材料の如何なる點に弱點を有するか、又如何なる點を放過して居るかを調査すること、
6、日常の平凡なる行事を非凡化して如何にも大切なことだと思はせる方法を工夫すること、
7、教師自身の言語と態度とを考へてその材料に適合させること、
8、如何なる問題によつて研究せしめ、何を中心として實行させうか、其の徹底法は如何、其の徹底を障害するものは何か。
9、學習材料と誠實との關係又忠孝との關係如何と考へて統合すること、
10、挿繪の觀察法から精神修養をさせること、

11、或る學習内容を反復して學習し之を實行に移するは如何にすべきかと考へておくこと、

12、學習材料と小學修身書中の「よき日本人」との關係如何、

言ふは易く行ふは難しと誰でも言ふが體得を背景として言は容易に得られるもので無い。教科書中の事項でも既に學習した體驗事項であればよしや記述が簡單でも讀む人には無限の味がある。教科書中美文を以て埋めても體得を餘所にして修養的興味を惹起せんとせば恐くは失敗を免れないであらう。修身教科書は修養を指導するものではあるが師弟共に修身的體驗を基礎として之を玩味せずば一層其の活用を大にすることが出來ないであらう。

三、書かぬ教科書の活用　修身教科書も讀み方の如何によつては書中自ら山海の珍味がある。されど之は教科書だけを讀む人の味ひ得ない所である。多くの人は書物を味讀することを知つて社會や自然を味讀することを知らないのは短見である。人は總べて社會に屬し相互に有機的關係を有つて居る。其の人人の有意的動作が盡く道德的意義を有し相互に影響するのだから、人は社會に於ける社會及び個人の行爲を讀むことが非常に各自の修養に關係するのである。此等の社會現象には一々接觸することが出來ない吾々は幸に新聞、雜誌、著書、其他人の談話等によつて之を知ることが出來る。直接間接の差はあつても吾吾は此の社會現象に依つて修養的生活を營むことが多いのである。平素此等の現象に注意することの必要は言ふまでも無い。只併し修身教科書と異なつて善惡混淆して目前に展開するから方法當を得ないと此等に留意することが反つて思想や行動の惡化する原因となることが多い。新聞から修養材料を取つて學習するものが往往此の弊害を多く現はすことがある。是に於て學習者は如何なる種類の學習を爲すにしても常に他人の長を推奬し他人の短を恕するの態度を養ふことに十分の努力を爲さねばならぬ。之には更に根本に這入つて痛切に我も人も共に伸びようと云ふ學習精神に徹底せねばならぬ。

既に社會や人が讀める様になると自ら自然が讀める様になる。一株の雜草にも一塊の石にも自ら教訓の意義がある。天地間悉く道德化して各自の向ふ所自ら定まる様になる。學習者ばかりでなく指導者も常に如上の境遇に居らねばならぬ。之

は人から求められるのでなくて眞に修養を爲す人ならば自ら玆に至るのである。此の如き生活中誰でも善も行ひ惡も行ふ。只衆善奉行諸惡莫作の精神に充ちて些の弛緩の無い樣に渾身の勇氣を振へばそれで宜しい。

四、教科書の補充材料　修身教科書は其の材料も記述法も共に道德的色彩が甚だ强いことは言ふまでも無い。德を愛好しないもの或は修養的經驗の乏しいものは反つて此の色彩に好感を持たぬことがある。然るに文學的文章であつて之を熟讀玩味する間に其の根底に流れて居る豐醇なる道德思想に觸れて大に修養に益することも又多い。此の意味で文學的材料を教科書の補充材料として使用することがある。更に國語科、歷史科、地理科などの文章が指導の如何に依り道德を高唱せずしてしかも道德修養に益することが澤山ある。

口常に道德を說くものが多く修養に裨益を與へることが無くて平素道德を口にせざるものが談笑の間に大に他人の修養を益することがある。修養者が注意如何によつては如何なる方面からでも修養上の補益を得られることは面白い。教師としては平素あまり修養を意識して居らぬ時に學習者に大なる修養的裨益を與へることがあり之と共に計畫的に修養させうと思うても餘り効果の無いことがあることを知つたならば平素自分の行爲全體に注意して居るは勿論行爲が悉く誠意を離れぬ樣に注意せねばならぬ。之と共に修養の機徹に通じ修養指導には種々の要領のあることを悟らねばならぬ。

第五節　修養的生活の環境

一、修養的空氣に充ちた家庭　人には伸びる性質があつて修養は人の喜び得るものであつても、人はその環境の如何によつて大に修養上の効果を異にする。殊に幼少の際は環境の影響が大きい。從つて堅實なる家庭の上に堅實なる國民は生れる。無言の內に父母兄弟特に母親によつて以心傳心に鼓吹された忠君愛國の念は生涯を支配し半意識的に家庭內で敎へられた事が終生忘れられぬことがある。何心なく母の膝下に遊戲して居た際「偉い人になれ」と諭された一言が白髮の老人になつて尙耳底に響いて金玉の聲がある。之に反して母の一言が人を導いて大惡人と化した例も決して尠なくない。平素最も多く母の言に背く腕白小僧が始めて學校に來て最も慕ふものは母である。此の兒母を慕ふ時平素の母の言葉も能く心底に響く。修養指導の人として最も重要の地位に立ち最も難境に立つものは恐くは母親であらう。此の母親を中心として作られた修養的空氣に充ちた家庭こそ修養的生活の環境として最も望ましいものである。

然れども此の母親も餘り强く道德を敎へ訓練を嚴にする覺悟を有つては反つて失敗する恐れがある。母親は先づ自分の修養を怠らぬことが第一である。次は家庭を整理して家庭內の人が自ら修養に趣く氣分になる樣に環境整理を行はねばならぬ。尙母親として子供が單に修養ばかりするのでなくて六相具備の人生發展を圖るのが必要であることを悟らなくてはならぬ。多くの場合單獨に修養的生活が現はれるものでない。

右は主として母親について云ふたが母以外の人も其の心掛は母と同樣でよろしい。之を要するに家庭內にも家庭學習の十分に行はれることが必要である。家庭の學習化は學校の學習化と共に現時の急務である。

二、學習者の眞劍なる修養態度　各學習者何れも眞劍に修養する態度を以て生活に處し快活で自由で勇敢であれば互に修養に益する所が多い。小禮曲謹に齷齪するよりも只管協同の精神を發揮し、他人を救濟するよりも寧ろ自分の自律に缺くる所なからしめ、常人の出來ない樣な感心な仕事をするよりも所屬團體の改善を圖ることに留意する所に眞劍なる修養態度が宿つて來る。道德に對する

態度を誤つては學習者は眞劍なる修養態度を得られない。

修養するものは虛言を云はぬ覺悟が無くてはならぬ。多くの學習者は非を飾らんが爲めに又他人の信用を得んが爲めに虛言を吐くこと多し。修養漸く進んでは罪科を告白することを厭はないのみならず告白せねば氣が濟まぬ樣になつて來る。自分の信賴する人に對しては此の情が一層痛切である。玆に於て修養の指導は一層有効になる。然れども罪の告白は極めて眞劍でなくてはならぬ。他人に需められて僞れる告白を爲し或は平氣に罪の告白を爲して耻づる所なきに至つては修養地を拂ふ樣になる。

眞に自由を愛するものは眞に服從する。徒らに服從するのは修養の途でない盲從者に生活創造は無い。服從は命令の徹底である。學習者は深く生活向上を心掛けて徹底的に命令に服從せねばならぬ。其の命令者は終局に於て自己の良心であるが其の發端は勿論自己以外にあつても何等差支は無い。

人多く大事に敗れないで小事に敗れる。人が大事を忽にすることのある樣に見えるのは大抵は大事を大事と思はぬからである。然るに世に些事を忽にせぬものは尠くない。些事を忽にする所から大事多く去る。日常如何なる些事たりとも誠を失ふに於ては修養上の大事である。些事即大事である。些事なりとて決して之を忽にしてはならぬ。如何なる些事でも人らしく生きて行く所に修養が進むので、之が良心によつて全生活を統御した狀態である。學習者が如何なる場合でも道德を意識して行動することには爲るまいが、如何なる場合にも忠實に其の目的的活動を遂げることには爲り得るであらう。

平素修養の態度を持すると共に常に修身の書を讀むが宜しい。修身の書を讀んで更に修養し體驗して復修身の書を讀む。書中自ら至味を藏する。修身の書を讀むこと亦一の修養である。學習者が意識するとせざるとに論なく生活に常に修養の意義があつて其處に始めて眞劍な態度があると云うて宜しい。修養的生活を餘り特殊な餘りに困難なものと思うては修養的生活を放逐することに爲る。何人も注意すべきことである。

三、修養指導の敎師　修養は學習者自身の仕事であるけれども修養に優秀な指導者のあることは特に大切である。自分の修養は一向に之を願みないで徒ら

に修身教授を實行して居るのは無頓着に過ぎるが自分はとても道德の師と爲ることが出來ないと卑屈退嬰の精神を起すのは思慮が餘りに淺いと云はねばならぬ。吾々は誠實を以て人生に處することは出來る。又誠實を以て學習者に對することも出來る。强烈なる求道心も持ち得る。現在は不完全であるが今後に於て發展することは出來る。道德は何人も實行の出來るものである。道德に不可能底の要求は無い筈である。學習者と共に自分も修養せうと痛切に念ずれば其處に修養指導の教師たる資格は具備する。教師は修養の師となることが出來ると先づ自分が自分を信ぜねばならぬ。

學習者に深き同情を有し衷心之を愛し之を尊重し其の人格の發展を信じ寧ろ其の腕白なる行動を愛し、偶〻邪道に入るも敢て之を惡まずして之を正善に導く好機會と思ひ、誓つて之を正道に導かんことを希ひ只管自分の指導の及ばざることを恐れる人は能く學習者を吸引し之を感化することが出來る。又能く學習者の心情を解し子供の如く理想的に、樂天的に積極的になりて眞に學習者に共鳴共感することの出來る人は能く學習者の心を吸引して感化することが出來る。之に反する教師は學力人物共に高くとも學習者の精神を吸引することは困難である。子供は餘りに子供らしくない教師からは感化を受けることが出來ない。此の理由から修養の餘り高くない若輩の教師が案外に修養指導に成功することがあるのは珍らしいことで無い。

人格の發展未だ十分でなくとも自ら能く其の弱點を知り熱烈なる求道心を有し赤裸々に自己の不十分を告白し過を再びせぬ覺悟を以て率先して學習者と共に痛切に修養する人ならば慥に學習者の精神を吸引し信用を得ることが出來る。學習者は是の如き教師に敬愛依信し感激して其の教に從ふものである。

求道心が堅固で信念があつて行持確乎たる人は其の言ふ所に權威があつて然かも何となく溫かみがあつて、之に接する人は强き刺戟を受け其の教示には何となく反對することが出來ない樣になると云ふよりも寧ろ反對したくない樣になり、遂には何となく之を實行してみたくなるものである。此の如き心理は可なり年齡の高い人にも行はれる。

既に教師である以上は多少は修養の經驗を積んだ人であることが必要であつ

て經驗は多いほど宜しい。煩惱即菩提だが煩惱の轉換に努力の大小があり時に遲速がある。概して云へば永い間大努力を傾注して遂に彼岸に達した教師が有効な指導をする。私欲を制御することの出來る人は一言で學習者の肺腑を衝き片言で其の心情を轉換させることもある。平凡な事實を非凡化して些事を忽にしてはならぬと思はせるのも、他人に同情の出來るのも、指導の徹底するのも、學習者に潜在して居る直覺內省努力創造の力を刺戟して新生命を作らせるのも、感情的で自制力の乏しい群集心を巧に制御して行くのも其の源は皆茲に在る。

修養は日常卑近のことが多いが日常生活の道德的判斷には頗る困難な場合が決して尠なくない。從つて教師は倫理學に精通するが宜しい。又文藝に親しむが宜しい。人間の大煩悶は多く文藝によつて知られる。今後の人心の向ふ所も亦文藝で知られる。文藝は天才の表現力によつて吾人の凡眼に映らない自然や人生の奥秘を映出するものである。又教師は經濟法制等には一通りは學習して居る必要がある。しかも此等の事柄を以て直に學習者を指導するので無くて成るべく間接に學習者が創作的に修養する樣に導く能力を具備して居らねばならぬ。

偉大なる力と親愛の心とを有する教師は學習者に欽仰せられる。此の美的敬賞の的となつた教師が一切を脫離して眼中只學習者あるのみと云ふ狀態になると師弟の精神は相融和し共鳴し共感し無言の感化も玆に開ける。母親の献身的愛情は能く云ひもせず考へることも出來ないことが出來る。斯くして養はれた道德に最大の强みがある。

教師としては單に自分が修養が出來たと云ふだけでは不十分である。能く學習者の個性環境等に應じて修養させることの出來る應病施藥の資格が無くてはならぬ。學習者の特性に應じて各其の發展を遂げしめたのはソクラテス、孔子、カントなどである。何れの個性をも沒却して其の發展を阻害したのは養州である。教師は全人格の發展した人であつて欲しい。少くとも全人格の各方面に着眼し得る人であつて欲しい。

學校に於ける教師は協同一致して學習者の修養指導に努め何よりも學校內に修養的雰圍氣を充滿させることを工夫せねばならぬ。斯くて學習者の學習も、教

師の日常活動も、學校に於ける種々の施設も、各般の年中行事も、皆道德化して來る。斯く道德化しても道德臭があつてはいけない。只表はれて居る所は學校内に立派に自律協同が行はれるだけで宜しい。各學習者は求めずして修養氣分になり寧ろ修養などと氣付かないで修養することが多くなる。

修養して後人を指導せうと思うては恐くは終生人を指導する期は無からう。人の性質にも依るが益〻求むれば益〻暗くなつて指導せうなどの氣分になれぬものが多からう。然れども人は他人と相共に求めて行くことは出來る。此の際他人を輔けることは出來る。未熟者に自分の經驗を談ることも他人の經驗を知らせることも出來る。此の態度があれば教育に關する勅語に對して深刻は理解と感激とを以て少國民の學習助成の作業を中心として成敗利鈍の打算を離れ、あらゆる困難も事とせず只管に自己を發展させて止まない樣になれる。

「斯くすればかくなるものと知りながら止むにやまれぬ大和魂」

は此の間の消息である。

「慈悲の眼に憎しと思ふものぞなき罪ある身こそ尙あはれなれ」

は學習者に對する態度である。されど之が爲めに教師の生活は充實し苦痛の裡にも無限の歡喜がある。淋しいうちにも春風は常に競うて居る。此の如き教師は時には枯木死灰の如く時には白熱せる彈丸の如く又時にはあまねく花枝に吹く春風の如く能く機によつて人の發展を輔ける。

第六節　修養生活の發展法

一、人生の實際に觸れて修養を爲せ　教師が生徒の實生活とかけ離れて或は嘉言善行を話し或は抽象的に道德を說き或は因襲的に斯く信ぜよと教へ或は忠孝の眞義は斯くかくと說教しても、生徒は實行の氣分に觸れることは極めて尠ないからとかく修身教授は輕視される。知らせることを主とする修身教授に於て或は問答により或は講演により生徒の感想を惹起することに努めても尙實行に益することが甚だ尠ない。そもそも道德的認識から道德的實行に進ませて二者を結合せうと云ふ計畫が不當なのである　此の如きことは修養の一場合で全體を蔽ふべきものであるまい。

修養は學習者の學校に於ける學習生活を中心として之に家庭及び社會に於ける實生活を加へ其の生活を捉へて向上發展させる所に主力を置かねばならぬ。學校は環境を整理して學習者が人生全體に觸れられる樣に爲すべきは勿論だが學習者は先づ毎日の學習生活を尊重して最も忠實に生きる目的を遂げて行かねばならぬ。學習者は隨時隨所に自ら主となつて自己實現を行ひ隨時隨所に偉い人となつて行かねばならぬ。其の生活が快感を伴うて生の興味となり生の努力となつて行く。勿論其の間には他人の道德的說明を聽き又進んで自ら理由を研究し或は更に或る場合の道德の精神を一般化して未だ經驗しない範圍に擴張するのも頗る宜しい。斯くすることが他日も偉く生きれる所以の方法である。今日に於ても偉らく生きることは出來ない。從來の教育法の如く一般の道德法則の生活毎日の卑近なる生活を尊重しないで修養に缺ける樣なことがあつては他を與へて之を以て特殊の場合を律して實行させうとすることを原則として恐くは修養に成功する所以であるまい。其の順序は寧ろ之を逆にすることが至當であらう。

二、修身教科書は主として此の修養的生活の發展を助ける所に價値を發揮する。　教科書の內容を理解し記憶することも必要だがそれは主としない。主とする所は生徒日常の生活が人生の各方面に觸れて種々の內容を如何樣に持つて居てもよいかと云ふことである。教科書は各種の場合を網羅

して居るから學習者の生活が如何なる内容を持つても皆適當な關係を持つことが出來る。時には教科書の方から實際の生活に影響させることもある。教科書があるが故に學習者が實際生活と離れることはあるが其の使用法を工夫し實際生活の向上を主とすれば教科書から害を受けることは無い。

二、實生活から出發して行く修養法　常に自己の實生活を捉へて如何に改善せうかと工夫するのが學習者の態度である。如何に道德を實行せうかなど考へるのでなくて日常の行事について改善を考へるのである。其處に既に創作的修養がある。如何に幼少のものでも其の行事の實行中自ら之は善い、之は惡いと考へることが起るのである。此の際避惡修善に突進する。之が修養である。教師は此の修養創作を指導する。修身教科書の事實も其の實生活の向上に役立てることが出來る。其の例話も訓辭も皆其の補助となるものである。實生活から出發して居るから學習の動機も强く實行の氣分にも觸れ易い。更に進んで學習者が相互に改善に就いて論議探究する。其の結果は直に之を學校生活に實現させる。時には論議を中止して實行に訴へることもあらう。教科書に書いてある様な事柄でも外形的模倣を離れて精神的模倣をするならば即時には困難でも何時かは學校生活に發現する。若し時期を待つべきものであつたならば實行を延期しておく。此の學校生活を時空に延長して家庭生活社會生活に移る。斯くして實行の氣分に觸れないならば適當の時期を隔てて更に反復學習する。數回反復すると全級のもの大抵は實行の氣分に觸れて來る。

從來の如く教師が教授して其の實行を促すと云ふ様な教育法ならば學校生活の實演範圍は非常に狹いが生徒が學習して自ら工夫して自己及び所屬團體の改善を圖る様になると學校生活が豐富となり其の實行範圍も廣くなつて各種の學校生活の形式が出て來るのである。

既に日常行爲の實行となると既に學習した各般の思想技術は相互に統合して其の實行を補ける。各學習者は斯くして自ら修養創作を爲すと共に更に他人を導いて少しでも社會的に自己を實現する人を多くする。之が自己擴張で衆生の濟度で其の結果は社會の發展となるのである。斯くて學校も家庭も社會も漸次道德的となり其處には道德的香芬が横溢する様になるのである。我も人も皆向

上發展が出來て共に伸びる愉快を味ふことができる。

三、誠實に透徹すれば宜しい　學習者が彼等日常の職分を中心とし毎日の生活創造を誠實に仕遂げて行けば人格の修養は出來る筈である。日常生活の改善を求めることが痛切で至誠を以て一貫せうとする人は年齢の成長と共に思想も道德も發展するからである。現實の生活創造を重大視せずして現實の生活は他日の社會活動を爲す準備だと考へ道德の學習に際して人としての一通りの道德的知識又は作法を修得すれば宜しい位に考へて居ては修養的生活の進歩は頗る不十分なものになる。それよりも現實の生活を重んじ假令學習の範圍は狹くとも現實生活を向上させて誠實に透徹せうとすれば修養の學習が非常に眞劍になつて來る。眞劍にならねば滿足な生活が出來ないからである。尤も現實生活と云うても其の範圍内に這入るものは頗る澤山ある。子供の生活でも大抵の德目に觸れることが出來る。子供でも學習が進歩して來ると社會萬般のことに注意する樣になつて反つて大人よりも廣く社會現象に注意し之を修養の材料に供給する。從來の修身敎授に於て大人生活に關する事項を敎授したのとは大に其の趣を異にする。遠き未來に關することを學習しても敢て之を咎める必要も無いが修養生活に於ては現實生活に中心を置いて其の發展に主力を注ぐことが頗る有效である。

各種の道德的知識及び作法を承知して居ることは頗る必要であるが之を心得て居て必要に應じて之を實現することは大抵の人には困難なことである。思うに道德的知識及び作法は知つて居ても容易に行へるもので無いから先づそれが容易に行へる樣に工夫しなくてはならぬ。それには日常生活の必要に應じて誠實に行動する習慣を養うて置く必要がある。道德的知識及び作法を多く知るよりも此の誠實の習慣を養ふことが更に必要である。此の習慣養成に努力すれば人は進歩して止まぬものである。學習者が身體の健全に留意し精神集注の習慣を養ひ日常の生活改善に熱中する樣になれば自ら誠實の習慣は成立する。指導者も如上の場合に注目して指導の主力を玆に注がねばならぬ。道德的知識及び作法はむしろ右の改善行爲を實行する必要上之を求めて止まぬ樣になるのが宜しい。

修身科の學習に於ては如何なる材料に就いて學習するにしても其の材料に依つて是非共此の一事は實行してみようとの決意に到着することが必要である。指導者も此の點に注意して始終學習者を誠實に導く。道德的知識や作法の記憶に駐歩してはならぬ。誠實に透徹すればそれで宜しいのであるが誠實に透徹するには道德的事實に依據せねばならぬのであるから誠實の內容は決して之を輕視すべきで無い。其の內容は書物から又現實生活そのものから得られる。

四、實生活を向上させる修養　實生活を向上させることは生活の必要に迫られての事であるから一見容易な樣であるが之には相應の困難がある。日常卑近の事は學習者に取つて新らしくも無く珍らしくも無く何等の感興をも惹かない。日常卑近のことであるから能く知つて居ると思ひ知れば澤山だ位に思うて居る。從つて輕心慢心を以て之に對し熱誠を以て其の改善を工夫し實行する氣分になれない。偶〻其の改善の必要に氣附いても容易に其の方案を案出することが出來ず。假令案出されても如何なる所から手を着けて宜しいかわからない位である。如何に朝寢を矯正すべきか、如何に勉强の仕方を改良すべきか、如何に粗野な言葉遣を改むべきか、氣が附かずに濟めばともかく氣附いても之を改善するには餘りに難事である。此の如き日常卑近のことが着々と改善せられる樣になつたならば眞に日常生活に價値賦與が出來るのであるから偉大なる發展を遂げつゝ眞に人生を樂しむことが出來るのであるから日常卑近の生活の改善は非常に必要であつて可なり困難なものである。今試に此の生活改善の弦に生活創造を試みないで一生を平凡に送るのである。

着手點を列擧してみよう。

1、何人も日常行ふべきことに弱點を有つて居るが平素は多く之を無頓着に放過して居る。眞劍に現實的自己を凝視すると何時とはなしに之に氣付く樣になる。

2、德行には道德以外の知と能とを要し實行に際しては其の方案を立するに大に創作の餘地がある。只平素は因襲に因はれて居るから之に工夫を凝らさないのである。各自の理想他人の模範の如き能く自己改造の着手點を觀取させる。

3、常に生活改善を行へば子供でも現實の生活に價値を感じ更に生活改善を行はうと念ずる様になる。

4、日常卑近のことも之に適當な道德的判斷を下して進まうとすると大人と雖も判斷に苦しむことが多い。平素は多く之を無頓着に觀過して居る。他人の惡事を人に告げうか告げまいかと考へる時實際でも頗る判斷に迷ふことの多いのは多くの人の經驗する所である。

5、些事即大事で些事の忽にすべからざることを知ると日常卑近のことで幾多の改善點があることに氣付ける。

6、義務には普遍性、絶對性進化性、不同性があることを知ると日常卑近のことでも之を重視し其の實行に努力することが出來る様になる。

7、日常誠實に生活改善を行はねば眞の自由も享樂も無いと悟れると改善の着手點は捉へられる。

8、日常生活の改善を圖れば自分の長所も短所も自覺することが出來て改善の要點も悟れる。

9、極めて容易に實行できると思うて居ることでも實際實行してみると實行は決して容易でないから如何に生活改善をせうかと考へる様になる。

10、學習者は皆偉い人になりたいと云ふ心がある。人は生活改善を行ふごとに一段と偉らくなつて行くのである。學習者が偉らくならうと思ふ所に生活改善の端緒は得られる。

學習者も指導者も右の改善着手點を知つて居れば實生活の向上を圖るのには便益が多い。指導教師は能く學習者の生活上の虛實を察して實を以て虛に對し效に行はれる。

五、修養の經過概觀　始は偉い人になりたい位の內容空虛の志を以て生活發展を圖つたものが漸次に志を擴充して六相具備の人生發展に努力する様になる始は師に叱られると恨んだものが志が眞に立てば叱つて欲しいと思ひ、嘖責熱喝も之を喜び、更に進んで之を求めて明德を明にする様になる。孔子は朝聞道夕死可矣と云ふた。其の發心の熱烈を思は此せる。蓋大道を辨究し得ずば動物と擇ぶ

所がないからだ。

立志堅固にして大道に歸趣すれば自ら修行せねば居られぬ樣になる。修行して逆境に陷れば初心を原ね順境に處しては末路を思ひ、念々相續して其の志念を動搖させぬ。志が眞に立つと觸目觸耳する所皆我が師となつて來る。志が立たねば世界の四聖も師とならぬ。立志の人は見聞覺知する所、行動云爲する所、悉く修養の境となり即時即處に大道の端的を會する樣になる。一刻聖人の心を存して之を行へば一刻聖人である。三月是の如くなれば三月聖人である。遂には凝然透徹して常住發展の聖となる。

諸欲を統御し迷魔を折伏し大道を蹈まんとする事決して容易でない。修養の動機すら起らぬことがある。思うて決行の氣分に爲り得ぬことがある。決行せうと思うても之を妨ぐる迷魔がある。決行に着手しても之を持續し得ぬことがある。持續しても何等の進境を見なくて倦怠の念頻りに至ることがある。名利の妖魔情欲の盜賊盛に出沒し遂には修行を轉覆する。益々修して益々遠く、歲月徒らに過ぎて德未だ修らず、日暮れて道尙遠しの感に堪へない。遂には失望落膽せざるを得ない樣になる。幾度か決心して幾度か失望し、其の都度悔悟の淚に咽び、更に奮起して自己の本性如何と究明するも復々敗れて復如何ともする事能はず、進んで困難を拓くを得ず、退いて世俗に伍することも出來ず、黑暗々裡に蠕動して眞に進退玆に谷まつて居る。斯くなつては只時間で解決するより外に道は無い。氣永に修養するより外に道は無い。性急に進めば失望する。時には古人に私淑し、時には今人の靈火に接し、大勇猛心を以て初志を持續し履踐する。其の中に大光明の來るあつて苦痛の間に歡喜を得念々透徹して遂に有德の人となれる。

志が既に立つたと思うても念々相續して其の實現を期するに於ては眞に能く其の志を奪はれる。貪名愛利に志を沒却することがある。毀譽褒貶に志を動かすことがある。或は客氣に驅られて云爲し或は忿怒嫉妬の爲めに迷に入り或は怠惰、輕忽、吝心、傲心の爲に邪路に入る。時には道德は人物を小ならしめると思ひ、時には徒らに道德を守つても生存に益なしとの小見識に陷り、時には身體薄弱の爲めに邪路に這入る。或は人もするからと思ひ、或は人に知れないと思ひ、或は些事だから差支なしと思ひ、或は面倒だからと思ひ、或は多忙だからだと思ひ、知らず

識らずの間に志を奪はれて行くのは誠にあさましいことである。思うに事あれば心奔逸し、事無ければ心昏沈し、折角立てた志をも奪去られるのである。

抑志を奪はれるのは自分に樂をせうと云ふ弱點があるからである。此の弱點を去つて切に志を責めよ。行持綿密にして少しも弛みの無い所に修養がある。彼の荒瀧に打たれて修業するのも之が爲めである。樂をせうと思うては樂が出來ないのであるけれども、修養者は容易に此の理を悟ることが出來ないで、生涯自己の發展を害する。人は先づ此の樂執を去れ。名利を放下することも出來る。更に一切を放下することも出來る。蓋一切を放下して一切を得られる。然るに一切を放下せうとすると一切が出て來る　出て來たら出て來るに任せて放下して置け。放下せうとも思ふな。其の中に御大に精神は統一する。精神が統一する樣になれば心は明鏡止水の如くなつても人情は存する。只第二念に渡つて取捨愛憎の念を起すことが無いまでである。

志を立て志を責めると共に痛切に反省することを要する。反省は具體的なることを要する。志が鞏固でなくては反省は永續せぬ。反省を困難ならしめるのは他人の短に明で自分の短に暗いことである。毎日機會を設けて省察し工夫するが宜しい。反省効を奏して痛切に本務の處に觸れ責任の處が深くなる。從つて時には敢て自ら進んで制裁を受け或は時期を待つて自分の責任を果さうとして向上無息となる。之に反して時には悲觀し時には自暴自棄に陷る樣になる。指導宜しきを得ると之が向上の好機會となるのである。反省には目標があると便利である。校訓級訓は之に役立つ。彼の座右銘も之に相當する。或人の座右銘に

自處超然、處人靄然、無事澄然、有事嶄然、得意淡然、失意泰然。

とあるが甚味すべき語である。座右銘は各自の特質に應じた工夫的のものが宜しい。或人の座右銘の中に

接客如二獨處一、獨處如二接客一、就レ寢如レ蓋レ棺、離レ褥如レ脫レ屣、尋常不二苟言一、言則必行、眠不レ違レ時、食不レ至レ飽。

等の句がある。具體にして卑近しかも行うて盡きないものがある。反省の習慣

が出來ると反省せねば滿足出來ぬ樣になる。

自己を救濟せうとするものは必ずや他人を救濟せねばならぬ。他人の自己發展を圖らねば自己擴張は行はれない。又自己滿足も無い。實に分我を否定し全我を働かして他人を救濟する所に自己擴張は行はれる。此の時の自己否定が自己の生存を害するが如く思ふから自己否定の氣分にもならず自己否定の決行も出來ないのである。これが自分の向上を阻害するのである。思ひ切つて他人に迷惑を掛けることを避け又他人の爲めを圖るが宜しい。萬物を我が胸に抱いて之を愛撫せうと思ふ心になつて始めて滿天滿地皆我が有となるのである。

實に此の利他の念は求道の第一步から存在して居るが解脫しても尙之を十分に實行することは出來ない。大聖佛陀の如き圓滿廣大な慈悲作用は常に容易に現はれるもので無い。宜しく利他を以て自己の生命となし無限に不斷に修養を怠つてはならぬ。自他一體の上に立つ我には自分を濟ふのも他人を濟ふのも同一である。天下一人でも其の所を得ざるものがあると之が己れの責任になるのである。

「罪あらばわれを罰せよ天つ神民は己れの生みし子なれば」

聖意誠に洪大無邊である。

修養は如何に進んでも迷執は飽くまで之に從ふものである。實に我執なければ法執ありとかや。始めは鐵鎖で繫縛せられたものが後には金鎖で縛せられるまでのことである。修養が漸く進んで來ると知識を蔑視する氣が起る。又之と共に物質を輕視する氣分になる。知識なくして德行なく物質なくして道德實現の境は無いのである。遂には自分の修養の進步に慢心を起し自分の愛を自慢し謙讓を自慢する。或は自分の學問に囚はれ自己の所信に囚はれ何時までたつても離れがたいのは迷執である。如何に御馳走を食つても停滯しては身を害するが如く修養の爲めに反つて身を誤るのである。

金鎖の縛も漸く解けて社會を自己に攝取すれば乾坤只一自己で誰に自慢の爲よりもなく恩の着せ樣も無い。これが自己を忘るゝ底の消息で不勉而中、不思而得、從容中道の聖人の境である。一家團欒の時は商人も利を忘れ學者も理屈を忘れて居る。之は自己が無いのでなくて自己を忘れて居るのである。必要に應じ

て何時でも自己に歸ることが出來る。實に自己を忘れて盡す所に天地の妙用が現はれる。卍山(Manzan)禪師が

一人ハ善ヲ善トシテ行フ能ハズ惡ヲ惡トシテ止ム能ハズ。一人ハ勉メテ善ヲ行ヒ勉メテ惡ヲ去ル。一人ハ善ヲ善ヲ忘レ惡ヲ去リテ惡ヲ忘ル。

と云うて居るが人の進歩を顯はして面白い。併し吾々は何れも皆之を經驗して居る。孟子は求放心と云うたが邵康節の心要放と云うた方が至極に近い。實に慣習を重んじて習慣に囚はれず、毀譽褒貶に無頓着ではないが之に心を惱まされることなく、一切の義務觀念から解放せられて心の欲する所に從うて無疑無慮に直進し狼狽もなく煩悶もなく泰然又淡然として歩々人生の進歩に貢獻して行く。玆に自己の尊嚴と價値とを感ぜずには居られない。人一度此處に至つて如何にしても無分別や亂暴なことは出來ない。吾人最大の努力は此處に發揮される。

是の如き生活になると何となく感謝の情に充ちて苦にも樂にも敵にも味方にも感謝する。自己の繫縛を解いて之を宇宙に解放した以上は滿天滿地のもの皆好侶伴である。斯くて平氣に生きて平氣に死することが出來る。其の平氣の生活の內に人生の目的は十分に遂げられる。

六、下學年に於ける修養　自ら生活の發展を圖る學習生活がそのまゝ道德修養の生活であるから兒童は入學の當初から修養を爲て居るのである。而してこれは家庭に於ける修養生活の連續である。學級に於ける大合科學習に於ては學習者は有目的の意志的動作を實現して居るのだから自律は自ら其の內にあるのである。又社會的生活を爲て居るのだから自ら協同せねばならぬ境遇にある。自律せねば自己の生活目的を遂げられぬばかりで無く學友の邪魔を爲す樣になる。其處に自ら協同の必要を感ぜさせられる。且つ協同せねば他人を害するから他人の抗議となり輿論の排斥となり時には教師にも注意せられる。その上協同が學級又は學校內に行はれぬと自分が他から障害を受けて困ることが多い。斯く自律協同の必要を感ずると共に何事を爲すにも眞劍で誠實で根限り行動せぬと自己の欲望充足に不滿足を來す樣になる。

學級及び學校では環境が整理組織されて居る上に指導教師はあらゆる機會を利用して道德的雰圍氣を作り級風を樹立せうとして居る。如何なる學習者でも

輿論には殆んど不可抗であるから教師は自ら第一線に立たぬまでも常に有力なる背景となつて學級内に健全なる道徳的輿論を建設せんと努力して居る。教師は自ら進んで直接命令を下すことは成るべく避けて居るが、學習者の善行を推奨するには微塵の機會をも逸することの無い様に細心の注意を拂つて居る。此の環境裡に在つて修養する學習者は知らず識らず道徳的空氣に觸れ道徳的知識を得道徳的行爲を目撃し或は摸倣し或は工夫し創作して日々に修養を進めて行くのである。

指導者が性急に道徳的訓練を實行せうとすると多くは失敗する。此の失敗は全學習の失敗となるのだから特に注意せねばならぬ。指導者は自ら意識して善行を爲す習慣を養ふ以前に先づ兒童をして自分の目的に向つて發動して止まぬ様にせねばならぬ。訓練は入學の當初にあるなど考へて彼の形式的訓練を初入學者に施す様なことを爲しては大牛の兒童は自由に發動する氣分を失うて又如何ともすることが出來ない様になる。極端に云へば退嬰萎縮して何も云爲せぬよりは少しは惡行であつても自ら進んで實現するが宜しい。行動する兒童に對

しては其の改善發展に導く機會を捉へることが出來るが何も云爲しないものには施すべき策が無い。萎縮して云爲せぬものは獨り道徳的生活に見込が無いばかりでなく、他の如何なる生活にも見込は無い。子供は惡行を爲すと云うても多寡の知れたものである。先づ彼等が伸び伸びと活動する様になれば指導としては一段の成功である。大合科學習指導の最初に於て時のは腕白で又は横着であるが上に腕力もあり知力も優秀で仕方のない子供に大に學級を攪亂されることがある。此の如き兒童に對しては暫く寛大を以て之を待ち漸次に輿論を振起して之を反省に導くが宜しい。協同的生活の發展は彼等に必要であるから學級自治は初學年より漸次に發展するものである。教師は大抵の事は寛大に處理して差支はないが十分に細心の注意を拂ひ危險又は取返へしの附かぬ失敗をさせぬ様に配慮しなくてならぬ。實際に徹するに初學年の兒童でも從來の如き嚴格な束縛は決して其の必要が無い。然れども校規弛緩し教師の注意が缺けると恐るべき弊害を來たすことがある。或人は「兒童は注意して放任せよ」と云ふたが面白い言葉である。

從來の修身教育に於ては先づ兒童を狹隘なる校舍内又は教室内に束縛し煩鎖な法則を以て束縛し訓練の効果を擧げうとした。如何なる場合でも一二嚴正なる校規の存在して居ることは必要であるが大抵の事は寛大に取扱ひ餘り煩鎖な法則で束縛せぬが宜しい。上級に至るに從ひ兒童は漸次規約を設けて自律するものである。學習室より學習園に導け、校内より郊外に導け、彼等が廣大な天地に自由に活動し得れば自ら煩鎖な法則を以て之を律する必要も尠なくなる。兒童は戰々兢々として道德的法則を維持するよりも先づ自ら善と信ずる所に驀進することに努力せねばならぬ。併し此の際指導者として大に注意すべきことは指導規正の要點を逸せない様にすることである。寛大なる處理は決して放任を意味するもので無い。短い綱で牛を繫ぐよりも孤島に放牧せよと云ふのが此の間の消息である。

先づ道德的知識を與へて之を實行に導くことは從來の一般の指導法であるが效果の尠い方法である。之は一場合として是認するは差支ないが一般法としては實行より更により正しくより善き實行に發展することを是認せねばならぬ。

大合科學習に於ては特に修身の時間を設けない。云はゞ何れの時間も皆修身の時間である。兒童が學習を獨自で進める時は即ち修養して居る時である。併し協同生活であるから相互關係に於て相互學習の問題となれば互に研究して將來の實行を期する。斯くして漸次に教育に關する勅語の御趣旨の全體に觸れて行くのである。指導者も此の際適宜に意見を述べて兒童の發展を企圖すべきである。又指導者は豫め道德的注意を與へることがあつても勿論差支は無い。時には教科書を讀ませ其の例話を惹き實行の決意を促すことがある。何れの場合でも學習者各自の實行の過去及び未來を觀過してはならぬ。下學年から道德的批判の能力を養うて宜しい。殊に上級兒童の爲すことで惡いことがある時は之を批判的に見て自分等は之に摸倣してはならぬと云ふ精神を持たねばならぬ。

彼の修身教授に於て簡單なことがらを引延ばして長時間講演する教師がある。其の講演の終に於て種々に問答して之から實行に導かうとするが餘り效果が無い様である。それよりも簡單なことは之を全部的に取扱うて度々反復するが宜

しい。反復する度毎に各自の實行と關係を取れば案外に効果がある。正しき姿勢に關する講話を如何に詳細に爲ても駄目だが度々注意して實際について矯正すれば効果がある。修身教科書の材料を修身時間に割當てて敷衍して話すが如きことは如何に感情的に話しても効果は乏しいものである。

大合科學習に於ては修身教科書の順序に修身教授は行はれない。只一定の學習時間に於て其の內容全體に觸れて行くのである。此處に教師の指導のあることは勿論である。

七、上學年に於ける修養　下學年に於ける修養に引續いて實行する上學年の修養は其の精神に於て何も變はる所は無い。又學習の全場合を修養の好機會とすることも同樣である。只第四學年以上に於ては中小の合科學習が行はれ特に修身の學習時間が出來て修身教科書を中心として學習するものとすれば之に對する學習方法も亦考慮して置かねばならぬ。今は特に修身教科書を中心として進む修養法について所見を開陳せうせう。

道德修養は勿論實行に待たねばならぬものであるが實行の問題を捉へ之を解決して行く補助となるものは修身教科書である。人生百般の實行に觸れることは兒童としては困難であるから勿論實行の一般化は行うにしても尙其の根本となる實行事情が餘り一方に偏するのは宜しくない。日常生活を中心として實行問題に觸れて行けば餘り偏することは無いにしても尙安心を許さないものがある。修身教科書は必要なる德目を網羅して居るから之を基として學習問題を取れば都合が宜しい。只教科書を使用すれば自ら教科書の暗記に走り實際的修養に遠かる恐れがあるから教科書の使用は特に工夫することが必要である。

修身教科書を中心として學習しても其の順序方法は勿論一般の學習法に依るのである。以下獨自學習と相互學習とに就いて其の生活形式を列擧せう。

第一、獨自學習

1、幾回にても通讀して大意を把捉する。

2、研究問題を選定し其の解決意見をノートに記述する。特に其の中の主要問題については主力を傾注する。

3、自分に引きあてて修養法を工夫する。即ち止惡修善の立案をする。各

學習者は環境、個性、思想、經驗等を異にするから各異なつた具體的方案が成立する。

4、共鳴、追憶、懺悔、賞讃、欽仰、憧憬、欣求、批難等につき所見所感をノートに記述する。

5、實行の出來るものは實行してみる。如何なる事柄でも其の精神を取つて實現すれば大抵は實行し得る。實行の時期を得ないものは自分の決心をノートに記述しておく。

6、未解決の問題は疑問として解決を延期しておく。

獨自學習と云うても參考書も見る。他人からも指教を受ける。勿論教師の指導はある。教師は學習者の意見を聽き更に疑問を提出することがある。或る事柄を通じて修養の根本に觸れることは有りがちのことだから教師は教科書指導によつて更に學習者の修養の根本に觸れて行かねばならぬ。學習者は之に依つて自分の長短を知り信念を養ひ牢乎たる實行の決意を握ることがある。相互學習の際沈默する學習者は獨自學習の際教師と意見を交換することが特に必要である。指導者は學習者の個性環境を此の獨自學習の指導で知り得るのだが之を十分に知つて居らねば指導に差支へることの多いことを知らねばならぬ。

第二、分團相互學習　相互學習は知的開發にも役立つが實行の立案を爲し實行の決意を高めて行くのには特に効果がある。獨自學習の終つたものは分團相互學習を爲すのを普通とする。

1、分團員は或る研究問題について意見を定めて相互學習に參加する。

2、成るべく主要問題について意見を交換する。其の意見は實行の背景ある事を必要とする。然らずんば實行の決意のあるものであつて欲しい。修養に關する研究は出來るだけ實行と終始せねばならぬ。單に言論の勝負であつてはならぬ。

3、感想所見、決意を發表し、或は相互に實行を約する。

4、學級相互學習に提出する問題と意見とを定める。

5、教師は交互に各分團の一員となつて研究を助ける。

分團相互學習には司會者があると都合がよい。注意して行へば分團相互學習

は靜肅に有効に行はれる。分團相互學習では研究問題中の主要なものだけで研究を他に進めて宜しい。學級相互學習で沈默するものは多く此處で言はねばならぬ。

第三、學級相互學習　獨自學習及び分團相互學習の終つた學習材料を取つて學級相互學習を行ふ。教師は學習者の學習ノートを悉く見ねばならぬことは無いが學級相互學習に先つて學習ノートを見て各學習者の主張、共鳴點、疑問點、感想等を知つて置くと指導上非常な便利がある。

學級相互學習と云ふ名稱の下に種々の學習生活が行はれる。

1、時々默想反省は調息を行ふ。

2、既習事項の實行について互に問答し互に實踐躬行を勸奨する。同一事項を幾回も反復して互に其の實踐を期するので無いと決して良習慣は養はれない。

3、教師も時々意見を披瀝して修養上の注意を與へる。又所感を述べる。

4、學習上の問題を提出して學習者互に研究する。修養上の研究であるから決して言論の末に走つてはならぬ。實際は實行し得ぬことはあつても其の言論は實踐の背景を持ち將來實踐に向つて進んで行くものでなくてはならぬ。

5、感想決意を語る。或は文章を朗讀する。感激の歌を謠ふ。修養上の描き方を爲す。參考書を讀む。教科書を讀む。

一旦修養上の研究を爲した後修養上の眞意を含む文學的の作品を朗讀して玩味するが如きは餘り修養の詞を使用せずして修養に徹底することが澤山ある。詩歌の朗詠、作歌、作曲の唱謠の如き何れも修養上に益がある。修養を無味乾燥なものにすることは極力避けねばならぬ。

6、學習者互に實行上の約束をする。學級相互學習が自治會になつても少しも差支は無い。

7、修養に關する學習法實施上の發展を相談する。過去を顧み將來の學習上の注意を喚起する。

教師が全人格を投げ出して嘉言善行を話し或は自己の所信を誤り或は滿腔の

希望を述ぶ。必ず學習者をして感動せしむるものがある。學習者に研究させて道徳的知見を明瞭にすることは良心の啓培に缺くべからざる事であるが、之と共に自己の人格を以て學習者の人格を指導する爲めに講演することも必要である。之を以て學習者の知見を廣め情意を陶冶する。只此の如き講演を爲すには時期と度數とを適宜にすることを忘れてはならぬ。大抵は相互學習の際教師も研究員の一人として講話を爲すが宜しい。獨自學習の際の指導も大に心を用ゐるが宜しい。學習法の實施上には決して教師の活動すべき場合が無いのではない。

學級相互學習の際研究問題を掲げて研究する時は左の如くする。

1、學習者は豫め研究問題を黒板又は小黒板上に書いておく。又口頭で出す。

2、主要問題から研究を始める。

3、提出の理由、主張、反對意見、贊成意見等をなるべく澤山述べる。澤山述べねば聽くものの情意の鍛成とならぬ。

4、成るべく研究の結果、問題を解決する。教師も贊成又は反對の意見を述べて宜しい。結局に於て他人の判斷を承認して歸るのでは宜しくない。研究の結果各學習者が確信を得るのでなくてはならぬ。

5、教師は原則としては多く云はぬが宜しいが、其の要所要所に贊否を表する。大に修養の徹底を圖ることが出來る。

6、研究事項が複雜になると容易に贊否を表することは出來ない。研究中思考の時間も考へねばならぬ。研究が停滯するのは止むを得ない。又指導者は或は板書し或は所論を分析して要點を明にして研究上贊否を表するに便宜な樣にするが宜しい。華やかな研究よりも澁い研究に味がある。

7、教師は多く云はぬにしても深い倫理學上の知識と豐富な修養上の體驗を有つて居ることが必要である。日常卑近のことでも道德上の判斷には非常に困難なことがある。

學級相互學習未だ終らない內に獨自學習に移り或は分團學習に移ることがある。此等の順序は決して一定して居らぬ。又以上述べた各般の學習事項も時と場合と人とによつて大に取捨選擇を要する。固より拘泥すべきもので無い。

第七節　修養の徹底難

一、徹底難　吾人は修養可能の力あるにも拘らず假我に醺弄せられて欲情の奴隷となり、折角享有して居る人生の本質を發揮することが出來ない。或は社會の因襲に囚はれて盲動し、或は利害得喪を打算して德を行ふ。是の如くならば如何にして修養に徹底出來よう。漸く志を立て自ら進んで修養するも知見に囚はれ愛欲に陷り小勇に走る。更に向上すれば向上に囚はれて却來することを知らず遂に向上一片の死漢となる。斯くして優者優に失して慢心し劣者劣に失して自ら畫る。修養も難。徹底も難。修養益〻進みて徹底益〻難がある。然れども無限に進歩する所に人生の價値現成する。吾人は根氣よく徹底を期して行かねばならぬ。

二、修養可能の自信　兒童は多く無頓着に活動する。時には間違つた仕事もする。されど彼等は偉い人になれると思うて居る。修養可能を暗に信じて居る。斯くて自己の人格を何となく敬して居る。此の自敬心が修養の根本で修養徹底の要鍵である。此の要鍵を失うては人格の寶庫を開くことは出來ない。敎師は兒童を信用し紳士淑女として之を扱へ。偶〻惡事を爲すものがあつたならば之を正徑に引戻すまでである。兒童が自己の品位を重んじ名譽を尊び自重自敬する所に修養は徹底する。

規律的拘束は容易で敎師にも比較的氣樂な所があるが、兒童の自敬心に訴へ之を信用して種々の活動を爲させるのには容易ならぬ配慮を要する。兒童に自由を與へることが多ければ多いほど敎師は多く心を勞せねばならぬ。自由の無い所には修養も發展せぬ。兒童は敎師の靈火に接して、はじめて自己所有の靈火を燃やし得る。敎師の人格力は兒童に對する無形の拘束である。兒童は此の無形の拘束の下に自己の靈火を燃やし自由に道德を創造する。

自敬が進むと自ら他敬も進み協同心も進歩する。修養は漸次に徹底し道德的品性自ら成る。

三、道德的自由の修得　良心的活動は全我の活動である。自我全體の考察に依りあらゆる方面を考へ幾多の私心を去り最良最善の行爲を爲さんとする生活

は眞の自由の生活である。之が道德的自由の境涯である。此の時は教師は十分に自由を許しはあるが十分に服從の美德を發揮して居る。此の境涯では自由で て存分に道德を創造させるが宜しい。或は他人から見て批議するものがあるかも知れないが徒らに干渉して修養の意志を抑壓することは最も注意して避けねばならぬ。只道德的判斷に誤があつたら之を指摘し忠告する所があつて宜しい。其の自由に生活創造をする所に修養は徹底する。是の如き人は時には因襲的社會道德に反對するかも知れない。併しそれは私欲の爲めに災禍を受けるかも知れない。其の爲めに無いから自ら安んずる所があり社會も其の爲めに進歩する。然れども自己を省みず徒らに道德律に背反するは罪惡である。之は修養者の最も愼んで避けねばならぬ所である。社會の進歩の爲めと思うても往々私欲に墮ちて居ることのあるのは世間有りがちのことである。修養者は細心は心掛けて能く反省し知らず識らずの間に邪道に陷ることを極力避けねばならぬ。正師に就くことは此の點からも必要である。

四、學校生活と修養　兒童は自覺に乏しく自律心も弱い。その上に摸倣心も依賴心もあるのだから環境を整理して道德的雰圍氣の內に生活させることは修養上大切なことである。學校生活中には道德の全般に亘つて修養の機會が澤山ある。獨り日常の學習生活ばかりでなく遠足、運動會、各種の會合、作業等修養の機會は多い。此の修養生活が時空に延長すれば宜しい。學校生活と家庭生活とは人によつては必ずしも一貫しない。家庭で行儀のよい子供必ずしも學校で行儀が宜しくない。然れども自律的に修養するものは遂には其の一致を見る樣にならねばならぬのである。其處に修養は漸次徹底する。

學校は自己發展に役立つと共に自己の發展を阻害することも亦多い。俗衆の爲めに獨立自主の精神を奪去られ因襲的に活動する習慣を作り創造的道德生活を鈍らせる。然れども此の人格破壞の場合が實は修養の機會となるのである。此處に教師の指導も必要となり獨立協同的に活動する校風も必要となつて來る。兒童は何れも此等の機會を利用して自活の發展を圖つて行かねばならぬ。

五、修養の徹底　放過も邪見も正見執着も心身の苦樂も實行の熱心不熱心も皆修養の徹底を害する機會となるものである。通俗的に云へば徹底は善惡兩方

にある。徹底も不徹底も人の性質に依り人種の差にもよる。英人は概して徹底的だと云はれて居る。

教師は自己の透徹力を以て兒童の徹底を指導せねばならぬ。不徹底を排するには氣合を圖つて指導することが必要である。氣合は虛實相對する所に生ずる。實と實、虛と虛とは氣合を生まない。放過、悔悟、失望、落膽、疑惑、驕慢、自負、混迷、求道、興奮、不安、無力、寂漠、遺憾、進取等は何れも心に虛の生ずる時である。教師は此の虛に乘じて修養に徹底させる。故意に虛を誘起するのに五つの方法ありと稱せられて居る。轉氣法、挫折法、誘念法、利用法及び放縱法がそれである。兒童が實を以て教師に對する時は教師は虛を以て之に對する。命令、訓戒、反問、賞罰等は教師の實で不答、笑殺、默殺、冷視等は教師の虛である。虛でも實でも電光石火的に動くことの出來るのは修養の出來た人である。

兒童は能く教師の指導に從ひ日常萬般の行爲を皆誠實と結合し些事即大事と心得て些事を忽にせず修養に例外を求めず誘惑に對しては此處ぞと思うて防戰し苦痛とか面倒とかに對しては此處ぞと思うて忍苦する。其の中で歩々修養に徹底する。

修養事項は各自の特性を基礎としてなるべく狹く之を選定して徹底的に之を實行する。實行後に深刻に省察し工夫を加へる。其の省察と工夫とは常に積極的方面と消極方面とに加へる。斯くて徹底するまで實行を繼續する。自分の善と信ずる所は成るべく他人に之を傳播する。其の間に修養は徹底する。

一時に多方面に修養を試みても成功しないから何か或る一つを取つて修養する。例へば忿心を起し易いものが決して忿心を起さぬと決心して修養し其の結果決して忿心を起さぬ樣になれば道德的生活は殆んど之によつて成ると云うても宜しい。然れども廣く各種の場合に亘つて忿心を起さぬ樣に修養せねば異つた事情の許に立てば忿心を生ずることがある。決して油斷は出來ない。修養の目標は卑近なことでも差支ないが目標の取り方が狹いと效果も乏しいことが多い。ともかく一つづゝ修養し修養が出來たら之を一般化し日々に新たに又日に新たにして道德的生活を進歩させて止まぬ樣にせねばならぬ。修養成るの日は無くてもよいが修養の進まぬ日の無い樣にすべきである。

學習各論 上卷終

大正十五年三月廿五日印刷
大正十五年三月廿八日發行

學習各論上卷

定價金四圓也

著作權所有

著作者 木下竹次 東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行者 目黑甚七 東京市京橋區弓町二十五番地

印刷者 高橋郁 東京市京橋區弓町二十五番地

印刷所 三協印刷株式會社

發行所 目黑書店

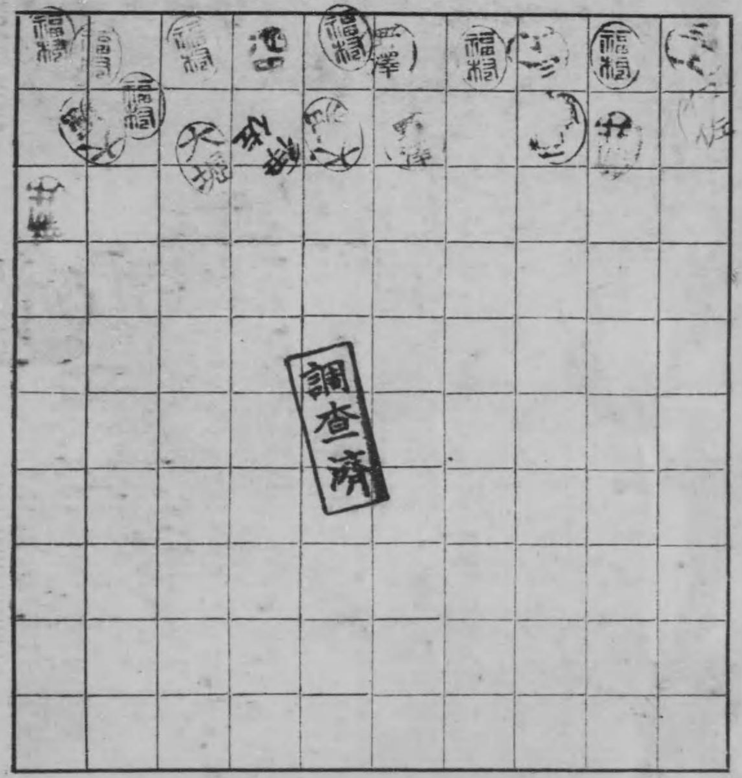
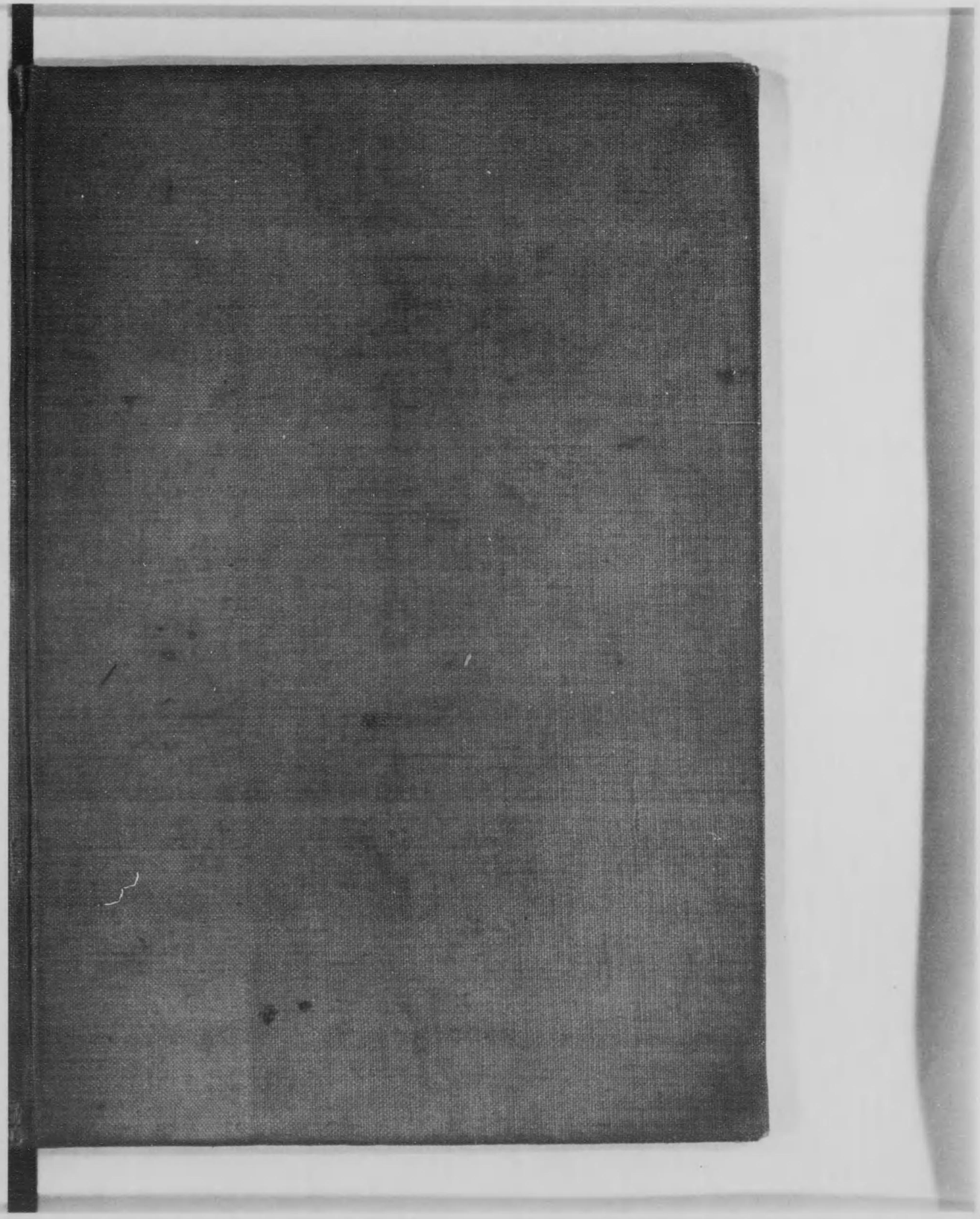
東京 東京市京橋區南傳馬町二丁目 電話銀座五六八四番 振替東京二八〇九番

新潟 新潟縣長岡市表四ノ町（本店） 電話長岡一八番 振替東京三六一九番

新潟市古町七番町（支店） 電話新潟九〇三番 振替長野四〇九〇番

279
41

15年6月5日



終